



『高知県への移住事業の拡大展開による経済活性化』
その具体的提言

提 言

2011年3月

土佐経済同友会

「高知県への移住事業の拡大展開による経済活性化」

その具体的提言

土佐経済同友会

代 表 幹 事 久松 朋水

代 表 幹 事 木村 祐二

代 表 幹 事 西山 彰一

健康福祉委員長 中澤 陽一

〈基本コンセプト〉

『もうひとつのふるさと』

【提言】

県外在住のシニア世代に向けてロングステイを中心とした
二地域居住を経済の活性化策として推進する

その具体策として「もうひとつのふるさと」としての高知県ブランドの構築と、移住コンシェルジュの機能強化、及び二地域居住推進の為の環境整備が重要と考える。

1. 高知県ブランドの構築
2. 移住コンシェルジュの機能強化
3. 二地域居住推進の為の環境整備

＜はじめに＞

現在、高知県においては、低迷する県内産業の体質を根本的に改善するため、産業振興計画が進行中であり、又、日本一の健康長寿県構想を策定し、その中で高齢者が安心して暮らせる高知型福祉の実現を目指している。

一方、高知市においても、将来の高知市のあるべき姿を見据えて、高知市総合計画を策定し、県都として高知市の荷うべき将来像を描いて今後への取組みを行なっている。

土佐経済同友会では 2007 年 8 月に「高知県経済活性化の方向性と活性化策に関する提言」を取りまとめ、高知県のありべき将来像として「日本一の輝く田舎」を目指すべきとして、高知県に提言書を提出した。

これを基本として、土佐経済同友会 健康福祉委員会では、急速に進行する高知県の高齢社会において、経済活性化に寄与できるシニアビジネスの可能性について研究・検討を行うと同時に、東京・名古屋・大阪の県事務所の協力のもと、主に大都市圏在住の高知県出身者の高知への移住ニーズに関するアンケート調査を行い、その分析を基に議論を深めてきた。

その結果を踏まえ、現在、高知県が取り組んでいる移住事業をシニア世代に向けた地域間交流を主体とした事業に重点拡大して取り組む事は観光振興を始めとする幅広い分野の産業振興に寄与する。

今回、土佐経済同友会として主として大都市圏に居住する人達に向けての「もうひとつのふるさと」を基本コンセプトに、「高知県への移住事業の拡大展開による経済活性化」その具体的提言、として取りまとめた。

[提言の基本的な考え方]

現在、大都市圏において団塊世代には二地域居住に対する高い潜在ニーズが存在している。又、この世代は個人金融資産の多くが集中すると共に、安定した年金収入のある世代でもある。今後、増大する大都市圏在住の団塊世代を中心としたシニア層を、早い段階から積極的に二地域居住や移住による地域間交流で高知県に取り込む事で、地域の消費経済を活性化させる事が今、重要な課題と考える。

県内の消費経済と雇用を維持・拡大する為、大都市圏に在住する団塊世代に向けての移住の積極的な推進は、消費マーケットの拡大とシニアビジネスへの展開につながる。高知にとって、シニアの人達やその家族等、大都市在住の人々との交流人口の拡大による経済の活性化は、地域の直接消費の拡大にとどまらず、関連する観光・不動産・小売等、幅広い分野の新しいマーケットの創出活動であり、それに起因する雇用の拡大と共に、地域コミュニティの再生にも寄与すると考える。高知県経済の活性化と地域コミュニティ再生の為に県の移住事業を再整備し拡大して取り組むべきである。

ここでいうシニアとは元気で活動的なアクティブシニアを主体として考えている。又、移住とは、主に二地域居住やロングステイを中心に展開するものであり、そのニーズは県内の中央圏域と郡部とのそれぞれの地域に対し存在している。

地域間交流の推進には、二地域居住を主体として高知の優位性を明確にし、いきいきとしたシニアライフを送るための「もうひとつのふるさと」として全県的な取り組みによる高知県ブランドの確立と共に、移住コンシェルジュの機能を強化拡大し、それらを推進する為の環境整備が重要と考える。

又、シニア世代にニーズの高い二地域居住を主体とする事で、高知への本格的移住という心理的障壁をなくし、且つ高知との関りを持つことが、将来の大都市生活での福祉介護への不安解消につながるという動機付けは事業推進の為の重要な要素でもある。

高知県の主要産業である医療・介護・福祉分野は、今後、更に施設・マンパワー共に増加する傾向にあり、高齢者住宅も国の施策から増加すると考えられる。一方、高知県では大都市圏よりも早く高齢者人口が減少に転じるため、将来その施設・住居・マンパワーの活用を、大都市圏在住の対象者に拡大しておく事も今から準備しておく必要がある。

二地域居住を主体として広義での移住推進をはかる事は、高知の消費経済や雇用の拡大に寄与し、且つ移住人口の増加による将来の社会保障費の地域負担を抑える事ができると共に、将来においても既存福祉施設やマンパワーの維持活用を図る事ができると考える。

広義での移住ニーズに対する高知のポテンシャルは高い。しかし今、移住に対する取り組みが全国各地で行なわれている中で、全ての団塊世代がシニア世代に入る 2015 年頃までの数年間の活動が高知の移住事業の将来を決定するラストチャンスのタイミングと考えており、早急な取り組みを提言する。

[提言]

県外在住のシニア世代に向けてロングステイを中心とした 二地域居住を経済の活性化策として推進する

その具体策として「もうひとつのふるさと」としての高知県ブランドの構築と、移住コンシェルジュの機能強化、及び二地域居住推進の為の環境整備が重要と考える。

1. 高知県ブランドの構築

- (1) GNH(県民総幸福量)を目指すべき新しい価値基準としたシニア世代が共感する地域づくり
- (2) シニア世代が元気で外出でき、楽しく暮らせる地域の実現
 - ・ シニア世代にとってゆっくりと気ままに「まちぶら」が出来る中心商店街の実現
 - ・ 生涯学習機能の整備充実
 - ・ 高知市周辺部への市民農園等の充実
 - ・ 郡部におけるクラインガルテン等の整備
- (3) 移住を考える中心世代である50歳代後半から60歳代前半の年齢層を中心マーケットとしてとらえた戦略の構築
 - ・ 「あったか高知」を活用した移住情報の発信
 - ・ 県外在住の高知県出身者やゆかりのある人達に向けた情報発信の強化
 - ・ 高知との関係を継続する為の仕組みづくり(例えば、高知県長寿手帳の交付や、個人のふるさと納税の仕組みづくり等)
- (4) 元気なシニア世代に向けて、将来の大都市圏での介護福祉の限界に対する「気づき」と高知の優位性、安全、安心イメージの構築
 - ・ 「日本一の健康長寿県構想」の大都市圏への多元的な情報発信

2. 移住コンシェルジュの機能強化

- (1) 移住に対する情報の受発信の一元化と、移住コンシェルジュの機能強化によるワンストップで対応できる仕組みづくり
- (2) 中央圏域へ移住コンシェルジュ機能、情報受発信機能、滞在機能を併せ持った中核施設としての交流センターの整備
- (3) 高知ファン、リピーター作りの為の仕組み作り

3. 二地域居住推進の為の環境整備

- (1) ロングステイを中心とする二地域居住や移住への受け入れ体制の環境整備
 - ・ 賃貸空住居の確保と整備への支援、及び住宅情報の発信
 - ・ 分譲・賃貸住宅情報の発信機能の整備
- (2) 二地域居住や移住に向けた高知体験の支援
 - ・ きっかけづくりの為にリーズナブルな宿泊施設等、ショートステイ環境の整備
- (3) 生活拠点として高知市等の中央圏域を主体とするニーズと、郡部へのニーズそれぞれに対する全県的な取り組み
 - ・ 市町村に関する情報発信
 - ・ 移住生活のライフスタイルや費用等を含めた具体的イメージの情報発信
 - ・ 公共交通機関利用の促進や長期利用の格安レンタカー等への支援策
 - ・ 社会参加をサポートする仕組みづくり
- (4) 不動産等を担保にして生活資金を年金として受け取る為の高知県版リバースモーゲージの研究・開発

＜高知における高齢化と今後の方向性＞

人口問題研究所の人口予想によると、2010 年の高知県人口は平成 14 年の県資料では 79.9 万人予想だったものが、平成 17 年の国勢調査で 77.2 万人、又、平成 22 年の国勢調査速報値においては 76.4 万人と予想を上回る減少が続けている。

高知県人口は 10 年間で下表を上回るスピードで減少すると考えられる。

	2010 年	2020 年	
人口 (H22 国勢調査速報値)	77.2 万人 (76.4 万人)	70.8 万人	▲6.4 万人
15～64 歳生産年齢人口	46 万人	39 万人	▲7 万人
65 歳～高齢者人口	21.9 万人	24.5 万人	+2.6 万人
高齢化率	28.4%	34.6%	
(年少+老年/生産年齢人口) 従属人口指数	67.8%	81.5%	

(H17 国勢調査予想値)

65 歳以上の高齢者人口は、高知県では 2020 年にピークを迎え減少に転じる。但し、75 歳以上の後期高齢者はその後も増加していく。一方、県人口は 10 年間で 6.4 万人減少する中で、働き手の人口はそれを上回る 7 万人減少する。そして働き手が支えるべき年少及び高齢者の割合が 2010 年 100 人当り 67.8 人に対し、2020 年には 100 人当り 81.5 人を支えなければならない社会構造となる事を示している。これは将来予想される国全体の 2040 年予想とほぼ同水準であり、高知県は国の 20 年先を行く事となる。

今、仮に実情に合わせて働き手が支えるべき人口に 15～19 歳の学生等の非労働者が多い人口を含めると、2020 年には高知県は働き手 100 人当たりが約 100 人を支える社会構造になると予想される。

一方、人口が一極集中する高知市でも下表のようになる。

	2010 年	2020 年	
人口	342,964 人	324,013 人	▲18,951 人
15～64 歳生産年齢人口	216,980 人	189,884 人	▲27,096 人
65 歳～高齢者人口	80,431 人	96,619 人	+16,188 人
高齢化率	23.5%	29.8%	
(年少+老年/生産年齢人口) 従属人口指数	58.1%	70.4%	

(H17 国勢調査予想値)

また、上記の高知市の生産年齢人口から 15～19 歳の学生等が多い人口を差引きして、20～64 歳に限定すると、2020 年には実質労働者数は 174,987 人となり、高知市でも 2020 年には実質 100 人の労働力が 85 人の生活を支える構造となってしまう。

今後高知県・高知市共、人口減少と共に生産年齢人口の大幅な減少が予想され、生産活動と県内消費は大きく変化せざるを得ない。その為、今までの地域経済を支える仕組みを根本から検討すべき段階に入ったと考えられる。

地域経済において人口の減少は、生産額の減少と共に消費経済の縮小を意味する。中心的に消費経済を支えている生産年齢人口は 1990 年に 53.6 万人あったが、2020 年予想では 39 万人と約 15 万人も減少してしまう。今、郡部においては人口減少により空家が急増し、地域コミュニティが崩壊しつつある。しかし現状を考える時、一般的には団塊世代はシニア世代の中でも個性的なライフスタイルによる消費活動が大きく、地方経済の活性化には大都市で急増していくシニア世代を、地域間交流や移住により高知県に積極的に呼び込む事で地域の消費人口減少に歯止めをかけ、経済を活性化させる事は可能である。積極的な地域間交流によりシニアマーケットを拡大させ、観光・不動産・小売等の幅広い分野に関連するサービス産業としてのシニア向ビジネスを展開し、その結果として雇用を増大させ、県内の生産額を向上させていく戦略を進めるべきである。

またその為には地域の求める姿として「県民にとっての幸せとは何か」という視点に立ったGNH(県民総幸福量)という新しい価値基準の構築が今後の社会において共感を得られるものと思われる。高知県が「健康で安心・安全な生活を営み、県民が幸せを感じる地域づくり」を目指す事は、これからのシニア世代のライフスタイルにおいても、人々の共感を得られる生活圏域の形成を意味し、この事が地域間交流や移住を推進するための重要な要素になると考える。

＜高知県移住事業の機能強化の必要性＞

現在、高知県では主として一次産業の担い手の確保の為の移住事業に取り組んでいるが、シニア世代にニーズの高いロングステイ等の二地域居住を主体とした広義での移住にその活動対象を拡げ、地域間交流を積極的にはかるべきと考える。

- ・ 現在は県の移住事業が一次産業の担い手確保を主体に活動している経緯から、シニアの移住やロングステイのニーズに呼応せず、情報不足となり、ミスマッチがおこっている。
- ・ 年間 4～5 百人の移住相談に対し、一次産業の担い手確保は 10 人/年程度にとどまっている事から、シニア世代の広義での移住ニーズに対象を拡げ、活動を行うべきである。
- ・ 移住事業は、主に二地域居住やロングステイといったシニア世代の主要ニーズを中心に、積極的に取り組むべきである。
- ・ 移住希望の動機のひとつに、一戸建住宅に住みたい、購入したいというニーズがあり、又ネット上で一番知りたい情報に「住まい」がある。その為、住情報の整備が重要である。
- ・ 県への移住相談は関東圏・関西圏で 6 割以上をしめているが、広義での移住に関心の高い 50 代以上は 23%の問合せに留まっており、情報に対するミスマッチがおこっている。
- ・ 本年度、県移住事業への会員登録は 4 人に 3 人が I ターンであり、U ターンを対象としたシニア世代のニーズには現状の情報発信が対応できていない。
- ・ 現在、統計上高知県の住居 377,000 戸の内、空室 62,200 戸とされており、その内訳は、戸建 34,200 戸、長屋 3,400 戸、共同住宅 24,900 戸、その他 100 戸とされているが、ニーズの高い戸建貸家について市町村が把握している空き住戸情報が少なく、その情報整理と改修を支援するサポート体制が必要である。
- ・ 移住コンシェルジュ機能の強化をはかり、シニア世代の求める広義での移住に対するあらゆる情報の一元化を図り、ワンストップで必要な情報提供とサポートを行う必要がある。

＜シニア世代を取り巻く環境＞

シニア世代を取り巻く環境は以下の状況にある。

- ・ 2015 年 団塊世代の全てがシニア世代となる。
- ・ 日本人の持っている不動産を含まない個人金融資産 1,400 兆円の殆どはシニア世代に集中していると言われている。
- ・ 現在の後期高齢者の資産は今の 50 歳～団塊世代がそれを引継ぐ事となる。
- ・ シニア世代の中で特に団塊世代は日本の歴史の中で唯一安定した年金収入のある世代である。
- ・ 2000 年～2005 年の 5 年間で 65 歳以上のシニア世代は全国で 367 万人増加している。
- ・ 首都圏においてはその内の約 1/3 にあたる 118 万人が増加し、関西 3 県では 56 万人、愛知県でも 23 万人が増加しており、シニア世代の増加は大都市圏程大きくなっている。
- ・ 更に 2005 年から 10 年間で首都圏ではシニア世代が更に 45%増加し、その内 75 才以上の後期高齢者は 63%増の 154 万人の増加となる。
- ・ その為、大都市圏においては今後、増大する後期高齢者の福祉需要に対応することは困難になると考えられる。
- ・ 大都市における在宅を含めた介護のマンパワーは都会における介護サービス就労者の所得から考察すると将来、外国人に頼らざるを得ない状況になっていくとも考えられる。
- ・ 大都市圏において将来、後期高齢者の福祉が行き詰まる環境であるという問題に対し、元気なシニア世代はその認識が薄い。

＜シニア世代のライフスタイルの変化＞

シニア世代では以下のようなライフスタイルの変化が見られる。

- ・ 「健康」「安全」「安心」志向が高まる中、シニア世代の関心は特に大きい。
- ・ 現在の後期高齢者と団塊の世代を中心とする元気なシニア世代とでは、ライフスタイルに対し、大きな価値観の違いが存在する。
- ・ ビートルズやローリングストーンズの時代を過ごした団塊の世代はリタイア後もアクティブで個性的な生活を求める傾向にある。
- ・ 団塊世代は生産活動からはリタイアするが、一方で充実した生活の為の消費行動は活発で、今後大きな消費マーケットを形成すると考えられる。
- ・ 2011 年 1 月 13 日の週刊文春のアンケートをもとにした記事によると、シニア世代にとって最後に暮らしたい町の第一位は「生まれ育った町」とであると報告されている。
- ・ 以前、海外移住ブームで国外へ居住したシニア層の多くは、生活習慣への対応問題等を抱え帰国している傾向にある。
- ・ マスコミ・マスメディアは今後のシニア生活における提案として「田舎暮らし」を活発に取り上げ始めている。
- ・ 「田舎暮らし」等のキーワードによるネット検索は全国で約 11 万件／月あり、そのニーズが存在している。

＜高齢社会における高知の強み＞

二地域居住や移住のニーズに対し、高知においては下記のような強みが存在する。

- ・ シニア世代にニーズの高い海・山・川の豊かな自然環境が身近に存在する。
- ・ アクティブシニアに向けて、ゴルフや魚釣り等を楽しむ環境が身近に存在する。
- ・ 四国霊場八十八ヵ所は比類のない周回ルートであり、近年海外からも注目されている。
- ・ 高知城、はりまや橋、新歴史館等の歴史資源が存在する。
- ・ 日曜市、よさこい祭り、まんが文化といった高知文化が存在する。
- ・ ひろめ市場、土佐のおきゃく等、食文化を発信する場所やイベントがある。
- ・ 高知市の東西軸エリアに歴史・文化・食の地域資源が蓄積されている。
- ・ 地産地消による質の高い食材の供給と素材を生かした食文化があり、じゃらん宿泊旅行調査でも満足度は全国1位である。
- ・ その他「2011年1月13日の週刊文春の記事」による「シニア世代にとって住みやすい優しい町」とは下記のような街だと紹介されている。

- ① 住民主導の地域コミュニティがある町
- ② 自宅から数百メートル以内の徒歩圏内で生活が完結する「コンパクトシティ」である事
- ③ 安定的に黒字運営の病院が町中にある事
- ④ 気候に恵まれた地域
- ⑤ 使いやすい公共交通機関がある事

そして記事中でも②や④、又路面電車が走っていることから⑤は高知市はその対象であると考えられ、同時に①③も高知にあてはまる内容である。

- ・ シニア世代の日常生活においてニーズの高い家庭菜園等の実現性が高く、又、今後、生活圏内での休耕地等を利用した市民農園の整備供給の可能性もある。
- ・ 県出身者や県ゆかりの人達にとって高知は、親戚や友人・知人が居住し、生活の価値観を共有できる「ふるさと」であり、地域コミュニティに参画する事への心理的ハードルも低い。
- ・ 郡部の地域社会は勿論の事であるが、コンパクトシティを目指す高知市の都市規模は今まで高知とゆかりのない人達にとっても地域コミュニティへの参画に程良い大きさの街であると考えられる。

- ・ 「高知で暮らす。応援局」への検索は 4～5 千件／月あり、潜在ニーズが存在している。
- ・ 大都市圏に居住する高知県出身者や高知にゆかりの人達の数、移住や交流人口の母数として考えると、現在の高知県人口や経済力にとって大きなインパクトを持っている。

＜高齢社会における高知の弱みが強みに代わる環境変化＞

シニア世代の将来の福祉介護への安心感や地域とのコミュニケーションという視点から高知を考えると、今までの弱みが強みに変わる環境の変化が存在する。

- ・ 日本一の健康長寿県構想により、県内のライフラインとしての医療ネットワークは今後充実されていくと考えられる。
- ・ 医療福祉分野における就労人口は全就労者に対し全国平均が 8.7%であるが、高知県は全国トップレベルの 12.6%、約 47,000 人が、特に高知市においては 13.9%、約 21,000 人がこの分野に就労しており、県内の基幹産業と言える。(H17 国勢調査報告より)
- ・ 高知市を中心とする中央圏域には医療機関が数多く存在すると共に、医療や高度な介護を必要とする患者に対する療養病床は全国平均の 3 倍あり、又、今後更に高齢者向けの施設や住宅は増加していく。
- ・ 大都市との比較において人口当たりの施設数が数多く存在し、在宅介護や施設の利用が多い後期高齢者世代も大都市圏よりも 10 年～15 年早く減少が始まる為、将来その施設やマンパワーを利用できる。
- ・ 今後、福祉介護分野の従業者の所得是正に国は取り組まざるを得ないと考えられるが、大都市圏との所得格差により、今後県内において福祉介護分野のマンパワーは大都市圏と比較して確保しやすい環境になると思われる。
- ・ 中心商店街の空き店舗の増加による賃料の低下は、シニアニーズに向けた新しいビジネス展開に有利に働く。
- ・ 今後、中心市街地に居住を希望するシニア世代と、県立大の永国寺キャンパスの学生等との地域交流を進める事が出来れば、地方都市における新しい形の地域コミュニティを形成する事が考えられる。
- ・ 農業を支援したり体験する学生が増えている事から、郡部においても交流の活性化を促すことにより、次世代の新しい形の地域コミュニティの形成が考えられる。
- ・ 郡部において人口減少により急増する空家の整備を支援し、貸し出すシステムが構築されれば、二地域居住や移住に関心のあるシニアニーズに合致すると共に地域コミュニティの再生や活性化につながる。

＜県内におけるシニア世代の新しい動き＞

今、高知県内において、既にシニア世代を中心とする次のような変化や動きが起こっている。

- ・ 奈半利町では教員住宅の1戸を「移住体験モニターハウス」として整備し、提供している。利用者は50歳代以上が71%を占めており、そこを拠点として県下広域で行動している。H21年度実績は年間226日48人の利用となっている。
- ・ 「移住体験モニターハウス」のアンケート調査によると、奈半利町に「また来たいと思う」リピート希望は100%、「住んでみたいと思いますか？」の問いには86%が「思う」と答えている。
- ・ 窪川のクラインガルテンでは、住居の15棟中10棟が県外在住者の利用となっている。(H22.12月現在)
- ・ J A高知が運営する家庭菜園は200区画(10坪/区画)あるが、20人待ちとなっている。(H22.12月現在)
- ・ 帯屋町の分譲マンションの購入層は3人に2人が50歳代後半以降の世代となっており、シニア世代の一人暮らしも多く存在する。このことから、車を利用せず悠々自適な生活を送る為に安心・安全で利便性が高い街中居住のニーズの高さが考えられる。
- ・ 県外在住のシニア世代が高知の人達との交流により住居を構える事例も存在しはじめている。

＜北海道におけるシニア世代の新しい動き＞

全国でさまざまな移住に対する取り組みが行われているが、昨年 11 月に土佐経済同友会の定例会での、移住に対し先進的活動を行っている北海道の事例の講演内容を簡単に記載する。

【北海道での取り組み】

北海道では 2005 年に大都市圏において、北海道への移住について 1 万人のアンケート調査を行なった。その結果、季節限定等のショートステイ・ロングステイを含め、約 80% の人が移住に興味を示している。又、その中で、札幌等の都市圏以外への居住ニーズが 70% に達していた。

「都市と地方の役割分担」を構築する事を目的として取組み、観光する事と移住する事の違いをビジネスのチャンスと捕らえて取り組んだ。民間主体に展開する事で、道庁の補助金は必要としていない。現在 250 以上の企業団体が参加して活動を行なっている。

平成 18 年に「ちょっと暮らし」というコンセプトでスタートし、その実績は平成 18 年 414 人だったものが、平成 21 年には 1,159 人まで増加し、一人当たりの滞在日数は 24 日間となっている。

空き家などの既存リソースの活用により、初期投資を最小限に抑えると共に、地元住民の住みやすさへの追求こそが基本であるとの認識から「住みやすいまちづくり」をテーマとしている。観光と違い「住む」という生活情報を市町村移住ワンストップ窓口サービスとして行って利便性を高めている。

「ちょっと暮らし」の利用者は 60 歳代が 6 割で、50 歳代以上で 8 割を占めている。又、夫婦利用が 7 割、家族利用が 2 割と、複数人数での利用が主となっている。又、リピーターがその内の 4 分の 1 を占めていると共に、「ちょっと暮らし」をもう一度してみたい希望は 90% にのぼる。利用目的はシーズンステイが 34% ある一方で、移住候補地探しも 18% に達している。「ちょっと暮らし」体験者の 2 割が移住を考えるという結果になっている。

地方エリアほど多様な人材やスキルを持つ滞在者と、人材やスキルの不足している受入れ地域とのマッチングによる人的ネットワークが構築され、北海道の地域コミュニティの再生と、地域ビジネスの創出がはかられる結果を生み出している。

2005 年の北海道庁の資料によると、3 年間で毎年 1,000 世帯の高齢者無職世代が 60 歳で移住した場合の経済波及効果は、当初の 3 年間だけに限っても約 800 億円（※社会保障の公的負担は約 55 億円）が見込まれ、生涯の経済波及効果は約 5,700 億円（※同 約 1,200 億円）と試算されている。

※参考までに上記の経済波及効果を高知県にあてはめ、仮に 3 年間で毎年 150 世帯（300 人）合計 450 世帯（900 人）が移住したとすると、その生涯の経済波及効果は 781 億円程度との試算がある。

＜高知県への移住ニーズに関するアンケート結果＞

次に土佐経済同友会が行った、主に県内出身者に対する高知県への移住に関するアンケートの結果報告を下記に記載する。

発送部数 2,202 に対し回答率 329 とデータ数は少ないが、自由記述への書き込みが非常に多く、興味の高さがうかがえる。移住に対する意識傾向は二地域居住やショート・ロングステイ等の滞在型を主体とする広い意味での移住に対し、そのニーズの高い事が読み取れる。

尚、この回答は 60 歳以上が 68.1%となっており、若い世代も含まれている。

【アンケートまとめ】

「移住してみたい」は 15.8%に留まるが、短期滞在、二地域居住を合わせると、半数以上の人が高知移住・滞在・居住を望んでいる。女性やひとり暮らしの方が相対的に移住希望が強く、居住圏域との関係では、とくに関西圏在住の人の場合、移住よりも二地域居住（セカンドハウス）志向がやや強い傾向が認められる。また、高知を離れてから「10 年以上 20 年未満」の人や、「年 3 回以上」と比較的多く帰省している人ほど、移住希望および二地域居住志向が相対的に強い。

年齢との関係では、移住を希望する人は定年に最も近い年齢層の 50 代後半が最も強く、二地域居住志向は 60 代前半で最も強くなり、65 才以上では移住希望が最も少なくなる。したがって、50 代後半の移住志向、60 代前半の二地域居住志向に合わせた条件づくりは、高知県における今後の方向となる。出身市町村との関係では、全体の 3 割程度を占めて最も多い高知市出身者の移住希望割合は比較的少なく、また、移住希望全体の 4 割ほどを占める高知市に住んでみたいと思っている人の半数以上は高知市以外の市町村出身者である。

移住したくない意向をもつ人の理由としては、男性は「現在の仕事の関係」や「家族の賛成が得られない」という、仕事や家族の意向に関する理由が多く、女性は「交通の便が悪い」、「移住費用が必要」、「買い物に不便」といった利便性や費用面での理由が多い。年齢との関係では、相対的に若い世代は「現在の仕事の関係」を理由にあげる人が最も多く、高齢世代では、「現在の居住地での生活に満足」のほか、「医療・福祉サービスに関する情報がわからない」という理由をあげる人が相対的に多い。

高知県で住みたい住居形態としては、「空き家（賃貸）」、「一戸建て（新規購入）」、「一戸建て（中古購入）」、「賃貸マンション」、「分譲マンション」の順に多い。女性の方が、「一戸建て（新築購入）」や「空き家（賃貸）」、「分譲マンション」を希望する人の割合が高く、若い世代ほど、「一戸建て（新築購入）」や「分譲マンション」、「賃貸マンション」を望む傾向が高い。

高知県へ移住するための情報としては、「移住を支援する施策や事業に関する情報」、「住宅に関する情報」、「市町村に関する情報」、「移住後の社会参加をサポートする仕組み

みづくりの情報」、「観光、レジャー、イベントに関する情報」等の順に多いが、男性は「移住後の社会参加をサポートする仕組みづくりの情報」、女性は「観光、レジャー、イベントに関する情報」を求める傾向が相対的に高く、年齢との関係では、高齢になるほど「市町村に関する情報」、若い世代ほど「就職の情報」や「就農の情報」を求める傾向が強い。そのような性別や年代別のニーズに合わせた「移住コンシェルジュ」機能の充実が今後の方向となる。

高知県へ移住するための条件としては、医療や福祉の充実、仕事や移動・交通手段の確保、自然環境が良く家庭菜園ができる住居、空き家情報の強化や滞在施設の整備、災害等の不安の解消、地域コミュニティに溶け込み、ひとりでも暮らしてゆけるサポートや情報発信などが求められている。

医療・福祉サービスとの関係では、それらに関する基本的な情報提供のほか、身近な場所で高度医療や救急医療が受けられること、県下でバランスのとれた医療ネットワークの構築により、高度・救急医療、終末医療や予防医療が安心して受けられ、在宅介護や地域福祉の充実を含む医療・福祉型まちづくりの推進が求められている。

以上のように、高知の豊かな自然資源を生かしつつ、県外在住者を迎えるための情報発信を積極的におこない、高知に対する愛着心を保持し定年を迎えようとする 50 代後半層や 60 代前半層を中心に、交通や買い物の「利便性」、医療・福祉・災害に関する「安心」、仕事や地域活動などの「やる気」、空き家の活用を含めた自然親和的な住環境整備による「癒し」などのニーズを満たす条件づくりが求められていると言えよう。それは、総務省が提唱するように、地方は地方らしい魅力を発揮することによって地方圏への人口定住を促す「定住自立圏構想」とも調和する地域づくりの方向性であると言えよう。

上記がアンケート結果の内容である。(調査結果を参考資料として添付)

※ 以上の各項目を協議・検討し、提言とした。 2011 年 3 月

【土佐経済同友会 健康福祉委員会 メンバー一覧】

2011 年 3 月現在

中澤 陽一（委員長） 井上 良介（副委員長） 野村 栄一（副委員長）
乾 伸行（書記役）

相谷 真司	網江 佳昭	五十嵐 武	石塚 悟史
市村 伊佐雄	上田 祐嗣	川添 博	中村 彰宏
楠瀬 路易子	塩村 泰幸	穴戸 元太郎	竹内 幸治
竹中 義博	鍋島 孝誠	西本 英世	久松 朋水
平岡 勉	古谷 恭一	細木 秀美	三谷 昭夫
宮下 博卓	宮本 正司	柳澤 光秋	山本 浩志
漁 師 明			

【健康福祉委員会 委員会記録】

◆ 2008 年

第1回：4月23日 11名 第2回：5月28日 10名 第3回：6月18日 12名
第4回：7月30日 13名 第5回：9月25日 10名 第6回：10月23日 9名
第7回：11月27日 10名

◆ 2009 年

第1回：2月26日 11名 第2回：3月26日 9名 第3回：4月23日 10名
第4回：5月25日 8名 第5回：10月22日 9名 第6回：11月26日 11名

◆ 2010 年

第1回：2月25日 15名 第2回：3月25日 12名 第3回：5月27日 16名
第4回：6月24日 15名 第5回：7月29日 9名 第6回：8月31日 20名
第7回：9月30日 13名 第8回：12月16日 8名

●高知県への移住ニーズに関するアンケート調査（2010 年 4 月～6 月）

（集計・分析）高知女子大学 田中きよむ教授

（協力）高知県地域づくり支援課

●定例会 11 月 16 日 80 名 アンケートの報告、及び講演会

講演会 テーマ：新たな移住交流施策への取組み

～人口減少と高齢化の中で地方が生きる道の一つとして～

講師：NPO 法人「住んでみたい北海道推進会議」統括プロデューサー 大山慎介氏

◆ 2011 年

第1回：1月27日 21名 第2回：2月15日 7名

参 考 資 料

1. 高知県出身・在住経験者の高知県への移住等に関する意識調査結果
P1～7
2. アンケート調査分析
P8～52
3. 高知県への移住に関する意識調査について
P53～59

高知県出身・在住経験者の高知県への移住等に関する意識調査結果

2010年11月17日

主幹 土佐経済同友会 中澤陽一

集計・分析 高知女子大学 田中きよむ

協力 高知県地域づくり支援課

はじめに

高知県では、死亡者数が出生児数を上回る「人口の自然減」と、転出人口が転入人口を上回る「人口の社会減」が同時に起こるとともに、人口の少子高齢化が並行して進んでいる。とくに「人口の社会減」に対しては、転出者数の減少と転入者数の増加につながるような地域活性化策が重要課題となる。たとえば、高知県は豊かな自然に恵まれるとともに、来高者を温かく迎えるおもてなしの精神や、人と人のつながりを作りやすい地域特性があり、そのような南国・高知の良さを生かした地域づくりや地域間交流を活性化させる方向が考えられる。

とりわけ、団塊の世代をはじめとした県外在住の方々に、「Uターン」や「二地域居住」などの形で「ふるさと高知」に帰ってきていただき、ゆったりとくつろいだ暮らしを満喫していただくとともに、個々の関心にあった地域活動や仕事に取り組んでいただける条件づくりを進めることを通じて、地域の活性化が図れるのではないかと考えられる。

そのような問題意識のもとに、高知県出身者を中心に、現在、都市部在住の方々に對して、高知県への移住等に関する意向や条件等をうかがい、県外在住者の移住や二地域居住等に関する意識と課題・方向を明らかにすることを本調査研究の目的としている。

本調査にご協力くださった方々に、この場を借りてお礼申し上げる次第である。本調査結果が、今後の高知県における地域活性化を進めてゆくための参考にしていただけるのであれば幸いである。

I 調査対象者の概要

- ・ アンケート発送部数 2 2 0 2 （大阪1100、東京514、名古屋250、神奈川171、千葉104、埼玉63）
- ・ アンケート回答数 3 2 9 （回答率 1 4 . 9 %）
- ・ 性別では、男性 7 2 . 6 %、女性 2 2 . 5 %となっている（資料 1 0 頁）。
- ・ 年齢別では、6 0 歳以上で 6 8 . 1 %となっており、6 5 歳以上で 4 7 . 1 %とな

っている（資料１１頁）。

- ・職業別では、無職が２６．７％と最も多く、自営業・自由業１３．４％、会社役員１３．４％、家事専従４．９％、公務員４．６％等となっている（資料１２頁）。
- ・職種別では、専門・技術職２１．３％、管理職１４．６％、事務職８．５％、等となっている（資料１３頁）。
- ・家族構成では、「夫婦のみ」の世帯が４８．９％と半数近くを占め、「夫婦と子ども」２６．７％、「一人暮らし（独身）」９．１％、「一人暮らし（単身赴任）」２．７％、等となっている（資料１４頁）。年齢別に見ると、「一人暮らし（独身）」は５４才以下が最も多く、「夫婦のみ」の世帯は６５才以上が最も多い（資料４３）。
- ・現在の住所別では、「首都圏」４０．１％、「関西圏」３０．１％、「名古屋圏」２４．０％となっている（資料１５頁）。
- ・出身市町村（合併前）別では、高知市２８．６％、高知県以外１０．８％、土佐山田町５．２％、南国市４．３％、安芸市３．３％、伊野町３．０％、佐川町３．０％、等となっている（資料１６頁）。
- ・高知を離れてからの年数では、「３０年以上」が６３．５％と最も多く、「２０年以上３０年未満」８．５％、「１０年以上２０年未満」７．０％、等となっており、１０年以上が７９．０％を占めている（資料１７頁）。
- ・帰省の頻度は、「年３回以上」１８．２％、「年２回」１９．５％、「年１回」１８．９％、「２～３年ごとに」７．０％、等となっている。「帰省していない」４．６％を含め、年０～２回という人が４３．０％を占めている（資料１８頁）。

Ⅱ 高知県への移住に関する意識調査結果

（１）将来的な高知県への移住希望

「移住してみたい」は１５．８％にとどまるが、「短期間だけ滞在してみたい」（１１．２％）、「移住ではなく、現在の住まいとの両方に住んでみたい（週末だけなど）」（２７．１％）を合わせると、半数以上（５４．１％）の人が、高知への移住・滞在・二地域居住を望んでいる。とりわけ、週末だけなどの形で高知に住むセカンドハウス型を望む人が最も多い（資料１頁）。

性別では、女性の方が男性に比べて、「移住してみたい」という希望がやや強く、「移住したくない」という割合がやや少ない（資料４１頁）。

家族構成との関係では、一人暮らし（独身）の人が、相対的に移住希望が強い（資料 4 1 頁）。

居住圏域との関係では、とくに関西圏在住の人の場合、移住希望が相対的にやや少なく、二地域居住志向がやや強い傾向が認められる（資料 4 1 頁）。移動距離の相対的な短さが影響している可能性が考えられる。

高知を離れてからの年数との関係では、「10 年以上 20 年未満」の人が相対的に移住希望比率が高い（資料 4 2 頁）。

帰省頻度との関係では、「年 3 回以上」と比較的多く帰省している人ほど、移住希望および二地域居住志向が強い（資料 4 2 頁）。

年齢との関係では、移住を希望する人は定年に最も近い年齢層の 50 代後半が最も強く、65 才以上では最も少なく、移住したくないという人が最も多い。反面、60～64 才の 60 代前半では、「現在の住まいとの両方に住んでみたい」という二地域居住のセカンドハウス志向が最も強くなっている（資料 4 4 頁）。

職業との関係では公務員が最も移住希望が強く、セカンドハウス志向は会社役員が最も強い。職種との関係では事務職が最も移住希望が強く、短期間滞在希望は管理職、二地域居住志向は営業職が最も強い（資料 4 5 頁）。

出身市町村との関係では、最も多い高知市出身者の移住希望割合は比較的少ない（資料 4 6－4 7 頁）。また、高知市に住んでみたいと思っている人の半数以上は高知市以外の市町村出身者である（資料 4 8 頁）。年齢との関係では、高知市への移住を希望している人は、54 才以下と 65 才以上が相対的に多い（資料 4 9－5 0 頁）。

（２）移住を希望しない理由

移住したくない意向をもつ人に、その理由をたずねたところ、「現在の居住地での生活に満足」20.4%、「現在の仕事の関係」9.4%、「家族の賛成が得られない」9.1%という外在的、個人的理由が多い。他方で、「交通の便が悪い」5.8%、「医療・福祉サービスに関する情報がわからない」5.8%、「移住費用が必要」4.9%、「仕事を見つけることが難しい」4.3%、といった高知に関連・由来する理由があげられている（資料 2 頁）。

性別との関係では、男性は「現在の仕事の関係」や「家族の賛成が得られない」という、仕事や家族の意向に関する理由が多く、女性は「交通の便が悪い」、「移住費用が必要」、「買い物に不便」といった利便性や費用面での理由が多い（資料 5 1 頁）。

年齢との関係では、54 才以下では、「現在の仕事の関係」を理由にあげる人が最も多く、65 才以上では、「現在の居住地での生活に満足」のほか、「医療・福祉サービスに関する情報がわからない」という理由をあげる人が相対的に多い（資料 5 1 頁）。

（３）移住や短期滞在の希望理由

移住や短期滞在などを希望する人に、その理由をたずねたところ、「高知県が好き」が 44.4%で最も多く、「自然環境がいい」41.6%、「知り合いがいる」26.4%、「住まいがある」18.5%、「退職後、高知で過ごしたい」14.3%、等となって

いる。「親の面倒」10.6%、「実家の跡継ぎ」3.0%という家庭事情による理由もあげられている（資料3頁）。

（４）高知県で希望する暮らし方

移住や短期滞在などを希望する人に、高知県ではどのような暮らしがしたいかをたずねたところ、「悠々自適に暮らしたい」42.6%、「趣味を楽しむ」22.8%、「家庭菜園やガーデニング」21.6%となっており、退職後、仕事途中のリフレッシュや心の癒しを求める傾向が強い。他方で、「地域活動・社会貢献」18.2%、「仕事をしたい」14.9%が続いており、第二の積極的活動や仕事の機会と位置づける人も見られる。また、「親や家族と一緒に暮らす」12.8%、という家族事情を考慮している人も見られる（資料4頁）。

性別との関係では、「仕事をしたい」や「親や家族と一緒に暮らす」という希望をもつ人は女性の方が割合が相対的に高く、「趣味を楽しむ」という希望をもつ人は男性の方が割合が相対的に高い（資料52頁）。年齢との関係では、高齢になるほど、「悠々自適に暮らしたい」や「家庭菜園やガーデニング」を希望する人の割合が高まる傾向が見られる（資料52頁）。

（４－１）高知県で希望する仕事

高知県で「仕事をしたい」という人に、希望する産業をたずねたところ、第三次産業（サービス業等）が11.6%と最も多く、第一次産業（農林水産業等）5.5%、第二次産業（製造業等）1.5%となっている（資料5頁）。

（５）高知県で住みたいところ

移住や短期滞在などを希望する人に、高知県で住みたいところを市町村名（合併前）でたずねたところ、高知市が38.0%と圧倒的に多く、南国市6.7%、安芸市5.5%、中村市5.2%、須崎市4.9%、宿毛市4.6%、伊野町4.6%、土佐山田町4.3%、等となっており、市部を希望する傾向が強い（資料6頁）。

（６）高知県で住みたい住居形態

移住や短期滞在などを希望する人に、高知県で住みたい住居形態をたずねたところ、「空き家（賃貸）」16.7%、「一戸建て（新規購入）」14.3%、「一戸建て（中古購入）」14.0%、「賃貸マンション」7.9%、「分譲マンション」7.6%、等となっている。「空き家」の需要が強いとすれば、その活用に向けた供給と需要のマッチング、コーディネートのある方（「移住コンシェルジュ」）が問われるだろう（資料7頁）。現在の居住圏および移住希望との関係では、首都圏と名古屋圏在住の人はセカンドハウス型居住を希望する人が最も多いが、住居形態は空き家（賃貸）を希望する人が最も多

い。関西圏の人は同じくセカンドハウス型居住を希望する人が最も多いが、居住形態は一戸建て（中古購入）を希望する人が最も多い（資料４４頁）。

性別との関係では、女性の方が、とくに「一戸建て（新規購入）」や「空き家（賃貸）」、「分譲マンション」で希望する割合が高い（資料５２頁）。年齢との関係では、若い世代ほど、「一戸建て（新築購入）」や「分譲マンション」、「賃貸マンション」を望む傾向が高い（資料５３頁）。

（７）移住に必要な条件

移住や短期滞在などを希望する人に、移住等を決めるにあたって必要な条件は何かをたずねたところ、「自然環境が良い」４１．３％、「医療・福祉の充実」３０．１％、「交通の便が良い」２５．２％、「食べ物がおいしい」２１．６％、「住宅が安い」１５．５％、「スーパーや商店街に近い」１５．５％、等となっている（資料８頁）。快適、安心、便利な環境・条件が求められているといえる。

性別との関係では、男性は「自然環境が良い」をあげる割合が高いのに対して、女性は、相対的に、「交通の便が良い」「食べ物がおいしい」「スーパーや商店街に近い」などをあげる割合が高い（資料５３頁）。年齢との関係では、高齢になるほど、「自然環境が良い」をあげる割合が高いのに対して、若い世代ほど、「就労の場がある」や「住宅が安い」をあげる割合が高い傾向が見られる（資料５４頁）

（８）高知県へ移住するために望む情報

すべての人に対して、もし高知県へ移住するとすれば、どのような情報を得たいと思うかをたずねたところ、「移住を支援する施策や事業に関する情報」３９．５％、「住宅に関する情報」３１．９％、「市町村に関する情報」２７．１％、「移住後の社会参加をサポートする仕組みづくりの情報」２５．５％、「観光、レジャー、イベントに関する情報」１８．２％、「自分の技術や技能を活かせる場づくりの情報」１５．２％、等となっている（資料９頁）。移住や移住先、移住場所に関する情報や、移住後の活動や楽しみに関する情報などがとくに求められていると言えよう。そのような意味での「移住コンシェルジュ」機能の充実が今後の方向となる。

性別との関係では、男性は「移住後の社会参加をサポートする仕組みづくりの情報」、女性は「観光、レジャー、イベントに関する情報」を求める傾向が相対的に高い（資料５４頁）。年齢との関係では、高齢になるほど「市町村に関する情報」、若い世代ほど「就職の情報」や「就農の情報」を求める傾向が強い（資料５５頁）。

（９）高知県へ移住するための条件、環境、サービス

高知県へ移住するための条件、環境、サービスは何かを自由記述回答でたずねたところ、医療や福祉の充実、仕事や移動・交通手段の確保、自然環境の良く家庭菜園ができる住居、空き家対策の強化や滞在施設の整備、災害や上下水道、物価への不安の解消、地域コミュニティに溶け込み人間関係を構築するためのサポート、ひとり暮らしへのサ

ポート、高知での暮らしの必要経費の目安などの高知で暮らしてゆくための情報発信などが求められている（資料１９～３０頁）。

（１０）高知県の医療・福祉サービスに関する意見・要望

高知県における医療・福祉サービスに関する意見・要望を自由記述回答でたずねたところ、高知の医療・福祉の提供体制のことがよくわからないという情報不足を示唆する意見も目立つが、身近な場所で高度医療や救急医療が受けられること、県下でバランスのとれた医療ネットワークの構築、終末医療や予防医療の充実、在宅介護や地域福祉の充実、高齢者だけの暮らしのサポート、医療施設へのアクセス整備、医療・福祉型まちづくりの推進、などが求められている（資料３１～４０頁）。

Ⅲ まとめ

「移住してみたい」は１５．８％に留まるが、短期滞在、二地域居住を合わせると、半数以上の人が高知移住・滞在・居住を望んでいる。女性やひとり暮らしの方が相対的に移住希望が強く、居住圏域との関係では、とくに関西圏在住の人の場合、移住よりも二地域居住（セカンドハウス）志向がやや強い傾向が認められる。また、高知を離れてから「１０年以上２０年未満」の人や、「年３回以上」と比較的多く帰省している人ほど、移住希望および二地域居住志向が相対的に強い。

年齢との関係では、移住を希望する人は定年に最も近い年齢層の５０代後半が最も強く、二地域居住志向は６０代前半で最も強くなり、６５才以上では移住希望が最も少なくなる。したがって、５０代後半の移住志向、６０代前半の二地域居住志向に合わせた条件づくりは、高知県における今後の方向となる。出身市町村との関係では、全体の３割程度を占めて最も多い高知市出身者の移住希望割合は比較的少なく、また、移住希望全体の４割ほどを占める高知市に住んでみたいと思っている人の半数以上は高知市以外の市町村出身者である。

移住したくない意向をもつ人の理由としては、男性は「現在の仕事の関係」や「家族の賛成が得られない」という、仕事や家族の意向に関する理由が多く、女性は「交通の便が悪い」、「移住費用が必要」、「買い物に不便」といった利便性や費用面での理由が多い。年齢との関係では、相対的に若い世代は「現在の仕事の関係」を理由にあげる人が最も多く、高齢世代では、「現在の居住地での生活に満足」のほか、「医療・福祉サービスに関する情報がわからない」という理由をあげる人が相対的に多い。

高知県で住みたい住居形態としては、「空き家（賃貸）」、「一戸建て（新規購入）」、「一戸建て（中古購入）」、「賃貸マンション」、「分譲マンション」の順に多い。女性の方が、「一戸建て（新築購入）」や「空き家（賃貸）」、「分譲マンション」を希望する人の割合が高く、若い世代ほど、「一戸建て（新築購入）」や「分譲マンション」、「賃貸マンション」を望む傾向が高い。

高知県へ移住するための情報としては、「移住を支援する施策や事業に関する情報」、「住宅に関する情報」、「市町村に関する情報」、「移住後の社会参加をサポートする仕

組みづくりの情報」、「観光、レジャー、イベントに関する情報」等の順に多いが、男性は「移住後の社会参加をサポートする仕組みづくりの情報」、女性は「観光、レジャー、イベントに関する情報」を求める傾向が相対的に高く、年齢との関係では、高齢になるほど「市町村に関する情報」、若い世代ほど「就職の情報」や「就農の情報」を求める傾向が強い。そのような性別や年代別のニーズに合わせた「移住コンシェルジュ」機能の充実が今後の方向となる。

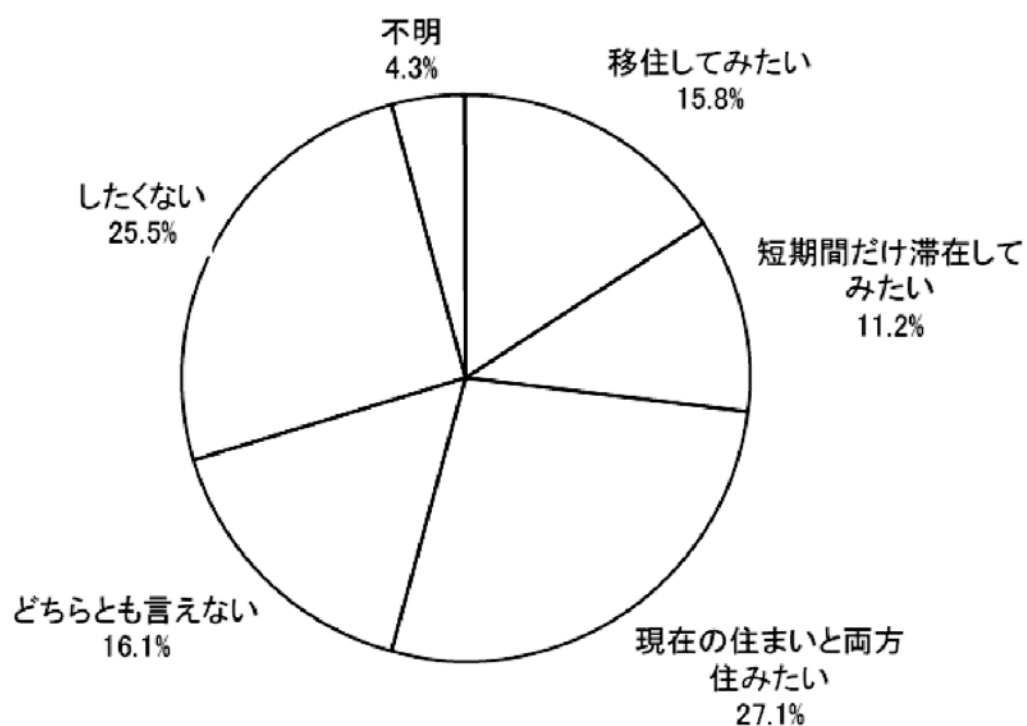
高知県へ移住するための条件としては、医療や福祉の充実、仕事や移動・交通手段の確保、自然環境が良く家庭菜園ができる住居、空き家情報の強化や滞在施設の整備、災害等の不安の解消、地域コミュニティに溶け込み、ひとりでも暮らしてゆけるサポートや情報発信などが求められている。

医療・福祉サービスとの関係では、それらに関する基本的な情報提供のほか、身近な場所で高度医療や救急医療が受けられること、県下でバランスのとれた医療ネットワークの構築により、高度・救急医療、終末医療や予防医療が安心して受けられ、在宅介護や地域福祉の充実を含む医療・福祉型まちづくりの推進が求められている。

以上のように、高知の豊かな自然資源を生かしつつ、県外在住者を迎えるための情報発信を積極的におこない、高知に対する愛着心を保持し定年を迎えようとする50代後半層や60代前半層を中心に、交通や買い物の「利便性」、医療・福祉・災害に関する「安心」、仕事や地域活動などの「やる気」、空き家の活用を含めた自然親和的な住環境整備による「癒し」などのニーズを満たす条件づくりが求められていると言えよう。それは、総務省が提唱するように、地方は地方らしい魅力を発揮することによって地方圏への人口定住を促す「定住自立圏構想」とも調和する地域づくりの方向性であると言えよう。

アンケート(2010.0731)

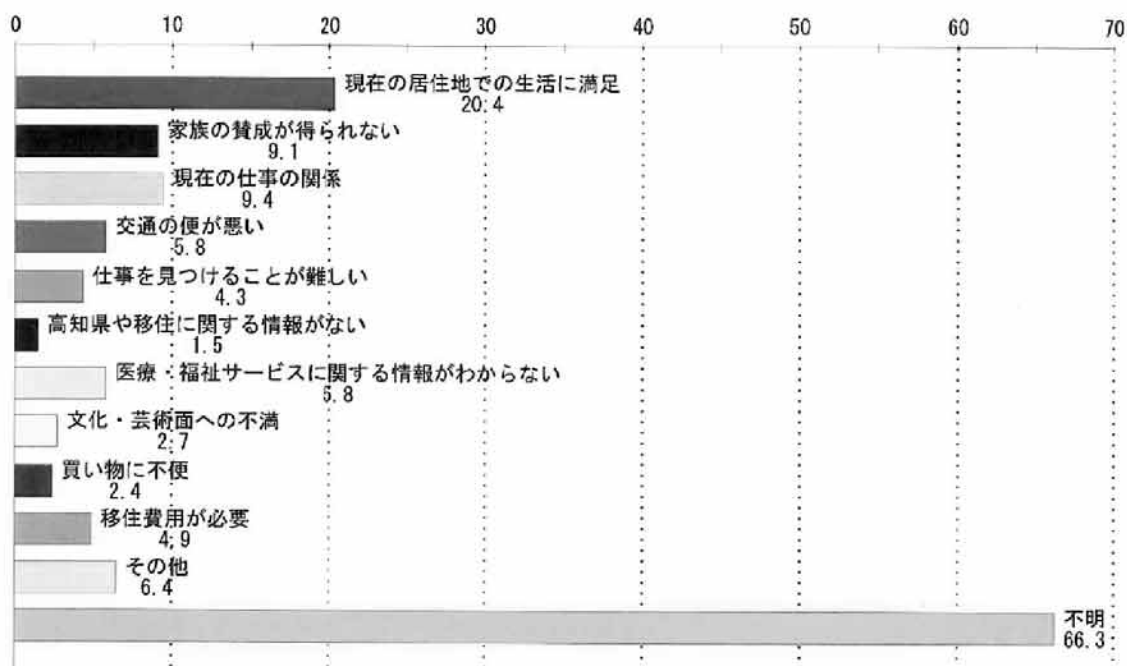
(1) 将来の高知県への移住希望 n=329



(1) 将来の高知県への移住希望(SA)

No..	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	移住してみたい	52	15.8%	16.5%
2	短期間だけ滞在してみたい	37	11.2%	11.7%
3	現在の住まいと両方住みたい	89	27.1%	28.3%
4	どちらとも言えない	53	16.1%	16.8%
5	したくない	84	25.5%	26.7%
	不明	14	4.3%	
	サンプル数(%ベース)	329	100.0%	315

(2) 移住を希望しない理由 n = 329

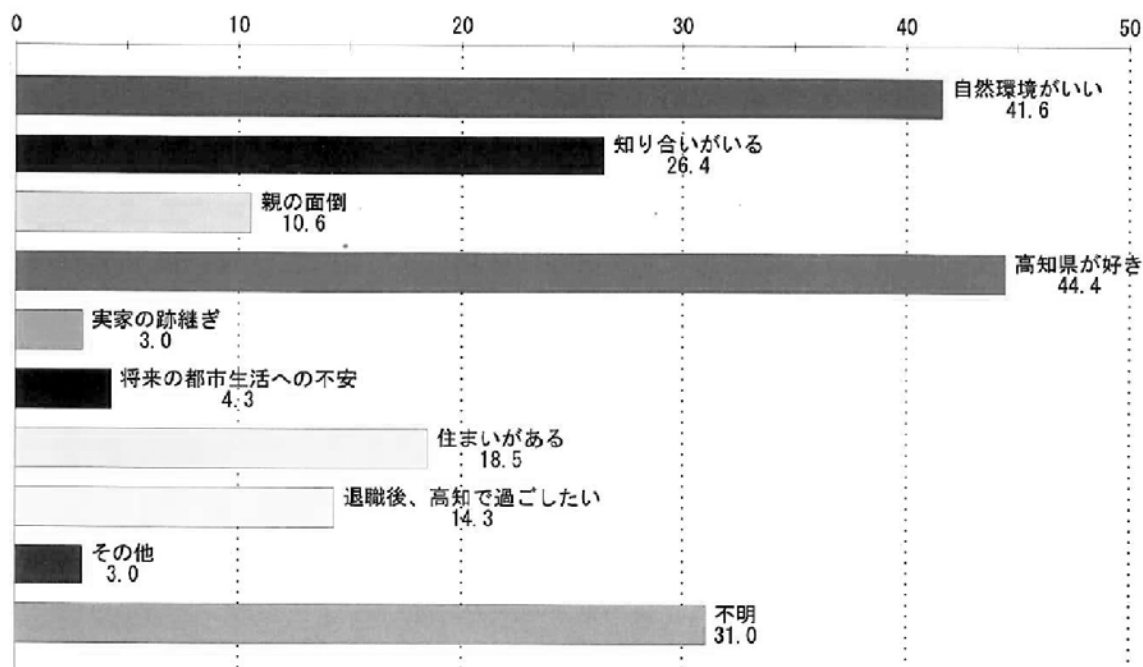


アンケート(2010.0731)

(2) 移住を希望しない理由 (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	現在の居住地での生活に満足	67	20.4	60.4
2	家族の賛成が得られない	30	9.1	27.0
3	現在の仕事の関係	31	9.4	27.9
4	交通の便が悪い	19	5.8	17.1
5	仕事を見つけることが難しい	14	4.3	12.6
6	高知県や移住に関する情報がない	5	1.5	4.5
7	医療・福祉サービスに関する情報がわからない	19	5.8	17.1
8	文化・芸術面への不満	9	2.7	8.1
9	買い物に不便	8	2.4	7.2
10	移住費用が必要	16	4.9	14.4
11	その他	21	6.4	18.9
	不明	218	66.3	
	サンプル数 (パーセント)	329	100.0	111

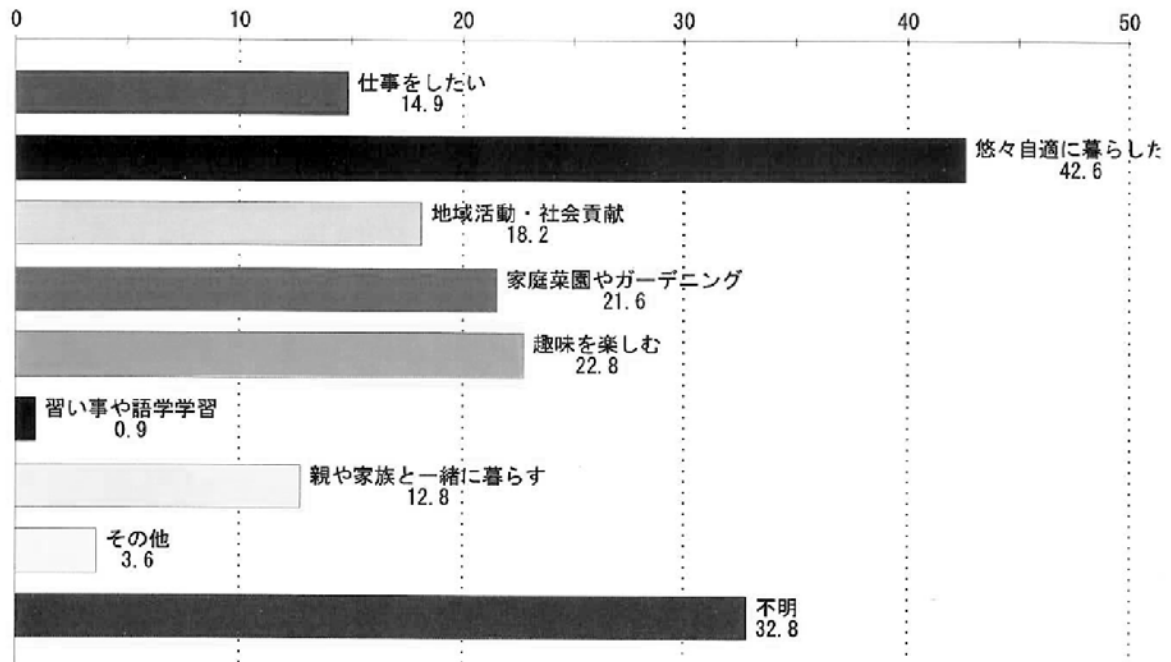
(3)移住(短期滞在)の希望理由 n = 329



(3)移住(短期滞在)の希望理由 (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自然環境がいい	137	41.6	60.4
2	知り合いがいる	87	26.4	38.3
3	親の面倒	35	10.6	15.4
4	高知県が好き	146	44.4	64.3
5	実家の跡継ぎ	10	3.0	4.4
6	将来の都市生活への不安	14	4.3	6.2
7	住まいがある	61	18.5	26.9
8	退職後、高知で過ごしたい	47	14.3	20.7
9	その他	10	3.0	4.4
	不明	102	31.0	
	サンプル数(%)ベース	329	100.0	227

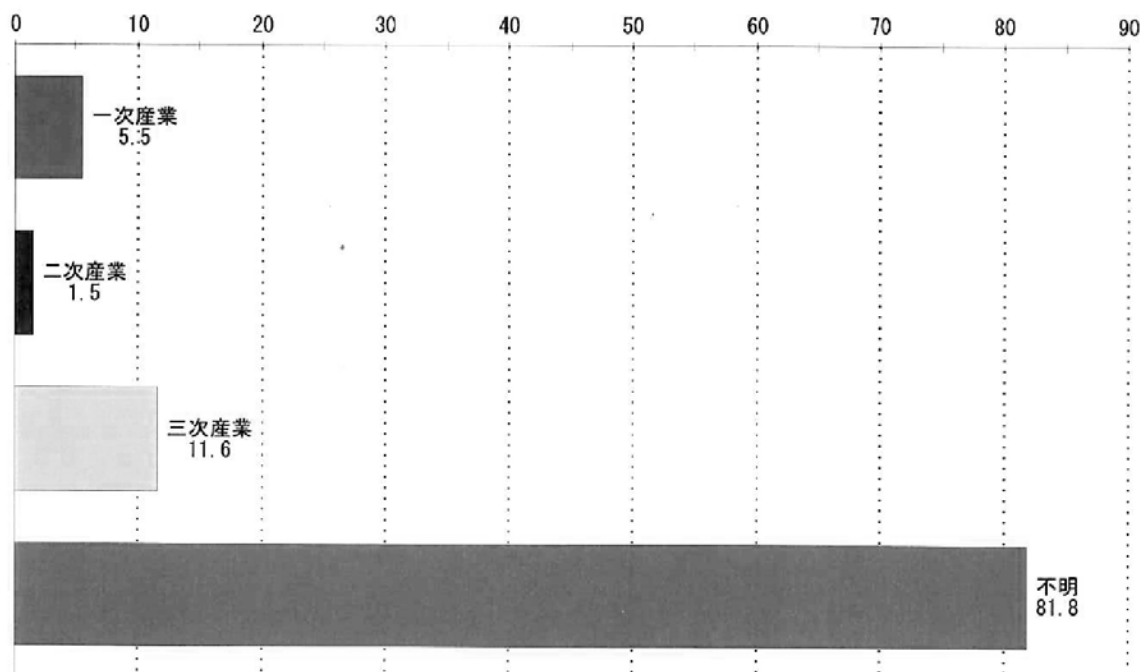
(4)高知県で希望する暮らし方 n = 329



(4)高知県で希望する暮らし方 (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	仕事をしたい	49	14.9	22.2
2	悠々自適に暮らした	140	42.6	63.3
3	地域活動・社会貢献	60	18.2	27.1
4	家庭菜園やガーデニング	71	21.6	32.1
5	趣味を楽しむ	75	22.8	33.9
6	習い事や語学学習	3	0.9	1.4
7	親や家族と一緒に暮らす	42	12.8	19.0
8	その他	12	3.6	5.4
	不明	108	32.8	
	サンプル数 (％ベース)	329	100.0	221

(4)高知県で希望する暮らし方-1 n = 329



(4)高知県で希望する暮らし方-1 (MA)

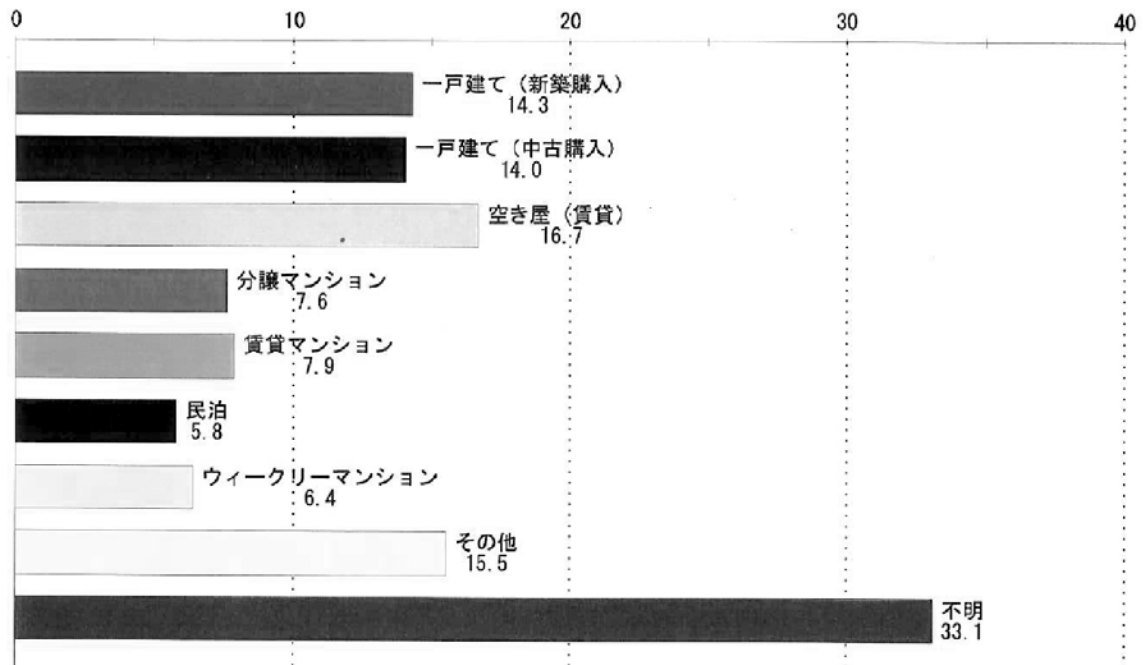
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	一次産業	18	5.5	30.0
2	二次産業	5	1.5	8.3
3	三次産業	38	11.6	63.3
	不明	269	81.8	
	サンプル数 (%ベース)	329	100.0	60

アンケート(2010.0731)

(5)高知県で住みたい市町村(合併前) (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	高知市	125	38.0	55.8
2	鏡村	0	0.0	0.0
3	土佐山村	0	0.0	0.0
4	春野町	7	2.1	3.1
5	室戸市	10	3.0	4.5
6	東洋町	1	0.3	0.4
7	北川村	1	0.3	0.4
8	奈半利町	5	1.5	2.2
9	馬路村	6	1.8	2.7
10	田野町	3	0.9	1.3
11	安田町	4	1.2	1.8
12	安芸市	18	5.5	8.0
13	土佐山田町	14	4.3	6.3
14	香北町	4	1.2	1.8
15	物部村	3	0.9	1.3
16	芸西村	2	0.6	0.9
17	赤岡町	1	0.3	0.4
18	香我美町	2	0.6	0.9
19	野市町	6	1.8	2.7
20	夜須町	8	2.4	3.6
21	吉川村	1	0.3	0.4
22	大豊町	4	1.2	1.8
23	本山町	0	0.0	0.0
24	南国市	22	6.7	9.8
25	土佐町	4	1.2	1.8
26	大川村	0	0.0	0.0
27	伊野町	15	4.6	6.7
28	吾北村	0	0.0	0.0
29	本川村	1	0.3	0.4
30	土佐市	13	4.0	5.8
31	日高村	2	0.6	0.9
32	佐川町	7	2.1	3.1
33	須崎市	16	4.9	7.1
34	越知町	3	0.9	1.3
35	池川町	2	0.6	0.9
36	吾川村	2	0.6	0.9
37	仁淀村	7	2.1	3.1
38	東津野町	3	0.9	1.3
39	葉山村	0	0.0	0.0
40	中土佐町	10	3.0	4.5
41	大野見村	0	0.0	0.0
42	窪川町	8	2.4	3.6
43	大正町	2	0.6	0.9
44	十和村	3	0.9	1.3
45	橋原町	6	1.8	2.7
46	佐賀町	3	0.9	1.3
47	大方町	6	1.8	2.7
48	中村市	17	5.2	7.6
49	西土佐村	0	0.0	0.0
50	三原村	0	0.0	0.0
51	土佐清水市	7	2.1	3.1
52	宿毛市	15	4.6	6.7
53	大月村	5	1.5	2.2
	不明	105	31.9	
	サンプル数(%へ-ス	329	100.0	224

(6)高知県で住みたい住居(短期滞在含) n = 329

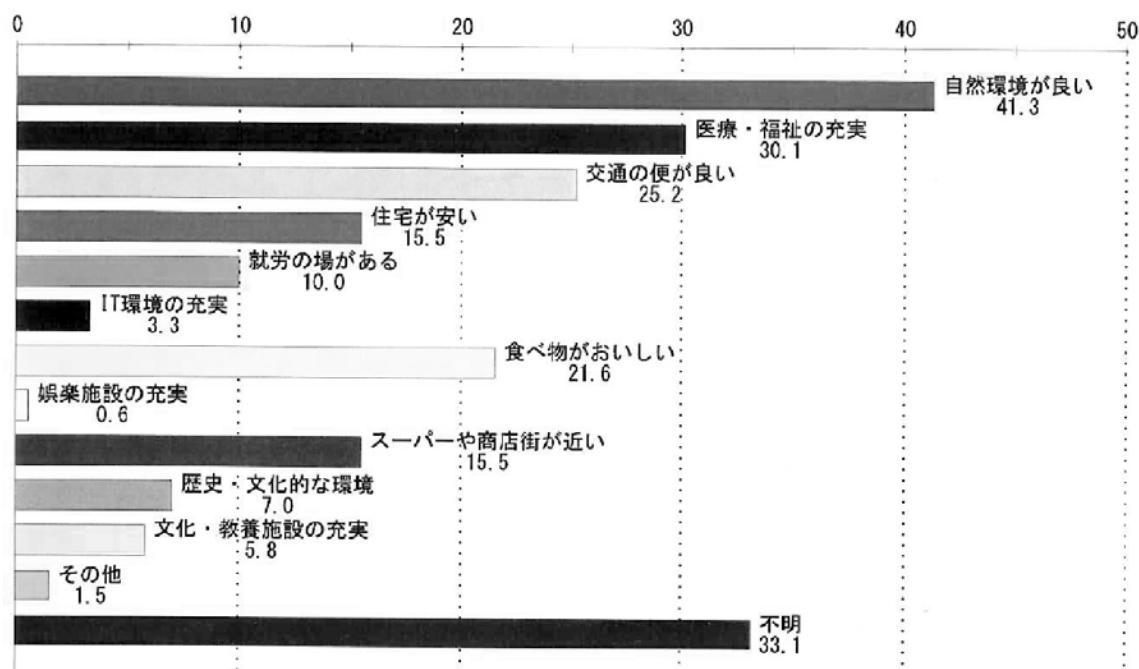


(6)高知県で住みたい住居(短期滞在含) (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	一戸建て(新築購	47	14.3	21.4
2	一戸建て(中古購	46	14.0	20.9
3	空き屋(賃貸)	55	16.7	25.0
4	分譲マンション	25	7.6	11.4
5	賃貸マンション	26	7.9	11.8
6	民泊	19	5.8	8.6
7	ウィークリーマンシ	21	6.4	9.5
8	その他	51	15.5	23.2
	不明	109	33.1	
	サンプル数(%ベース)	329	100.0	220

(7) 移住に必要な条件 (短期滞在含)

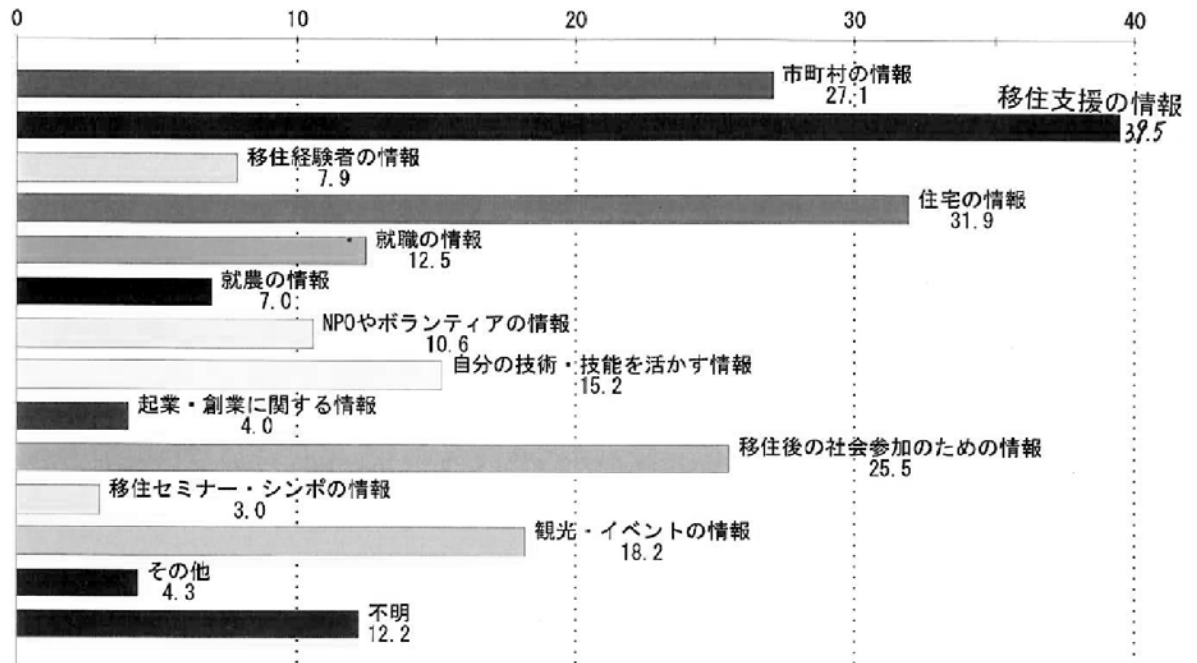
n = 329



(7) 移住に必要な条件 (短期滞在含) (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自然環境が良い	136	41.3	61.8
2	医療・福祉の充実	99	30.1	45.0
3	交通の便が良い	83	25.2	37.7
4	住宅が安い	51	15.5	23.2
5	就労の場がある	33	10.0	15.0
6	IT環境の充実	11	3.3	5.0
7	食べ物がおいしい	71	21.6	32.3
8	娯楽施設の充実	2	0.6	0.9
9	スーパーや商店街が近い	51	15.5	23.2
10	歴史・文化的な環境	23	7.0	10.5
11	文化・教養施設の充	19	5.8	8.6
12	その他	5	1.5	2.3
	不明	109	33.1	
	サンプル数 (%ベース)	329	100.0	220

(8)高知県へ移住するために望む情報 n = 329

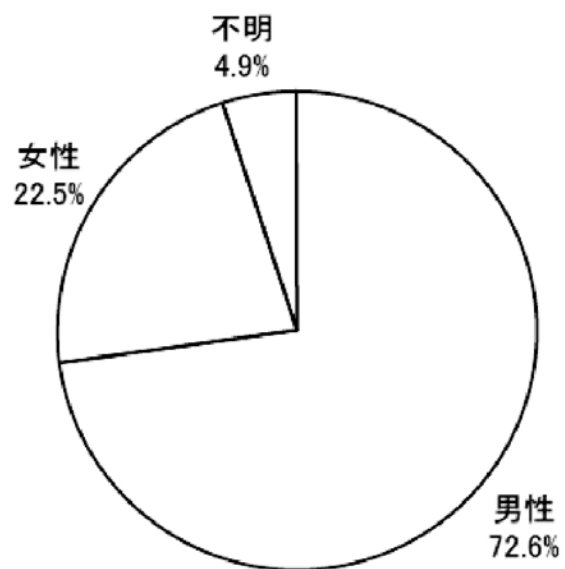


(B)高知県へ移住するために望む状況 (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	市町村の情報	89	27.1	30.8
2	移住支援の情報	130	39.5	45.0
3	移住経験者の情報	26	7.9	9.0
4	住宅の情報	105	31.9	36.3
5	就職の情報	41	12.5	14.2
6	就農の情報	23	7.0	8.0
7	NPOやボランティアの情報	35	10.6	12.1
8	自分の技術・技能を活かす情報	50	15.2	17.3
9	起業・創業に関する情報	13	4.0	4.5
10	移住後の社会参加のための情報	84	25.5	29.1
11	移住セミナー・シンポの情報	10	3.0	3.5
12	観光・イベントの情報	60	18.2	20.8
13	その他	14	4.3	4.8
	不明	40	12.2	
	サンプル数 (%ベース)	329	100.0	289

アンケート(2010.0731)

(11)-1性別 n=329

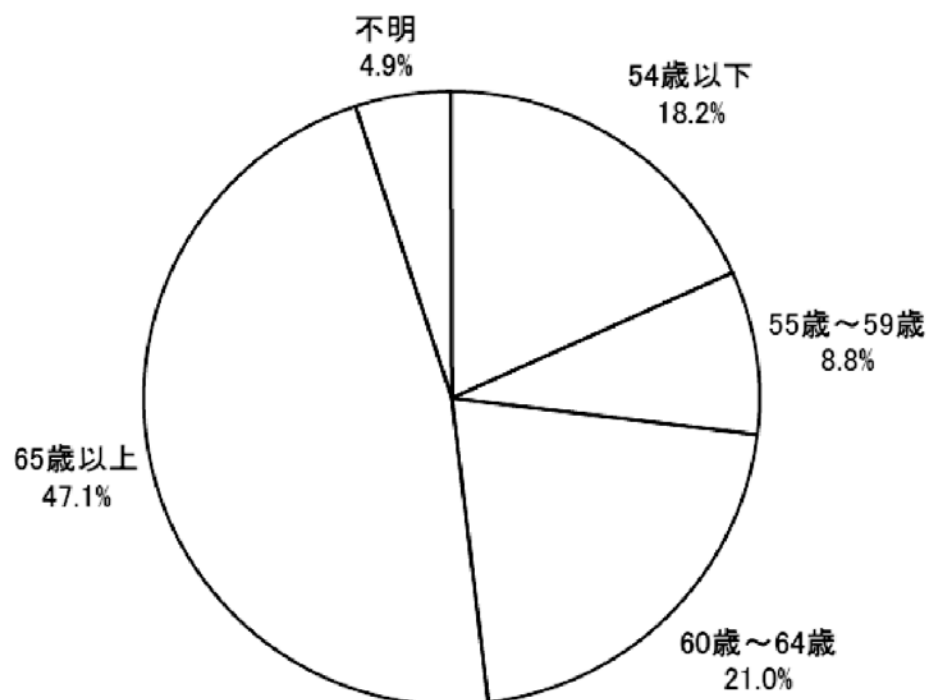


(11)-1性別 (SA)

No..	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	男性	239	72.6%	76.4%
2	女性	74	22.5%	23.6%
	不明	16	4.9%	
	サンプル数(%ベース)	329	100.0%	313

アンケート(2010.0731)

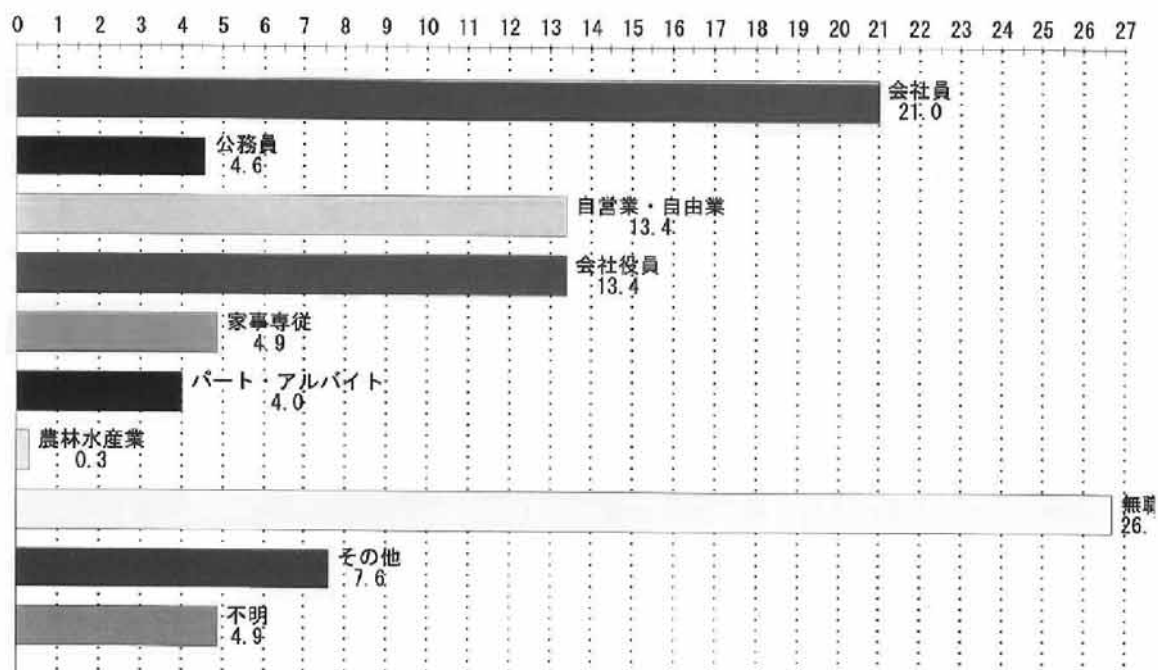
(11)-2 年齢 n=329



(11)-2 年齢(SA)

No..	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	54歳以下	60	18.2%	19.2%
2	55歳～59歳	29	8.8%	9.3%
3	60歳～64歳	69	21.0%	22.0%
4	65歳以上	155	47.1%	49.5%
	不明	16	4.9%	
	サンプル数(%ベース)	329	100.0%	313

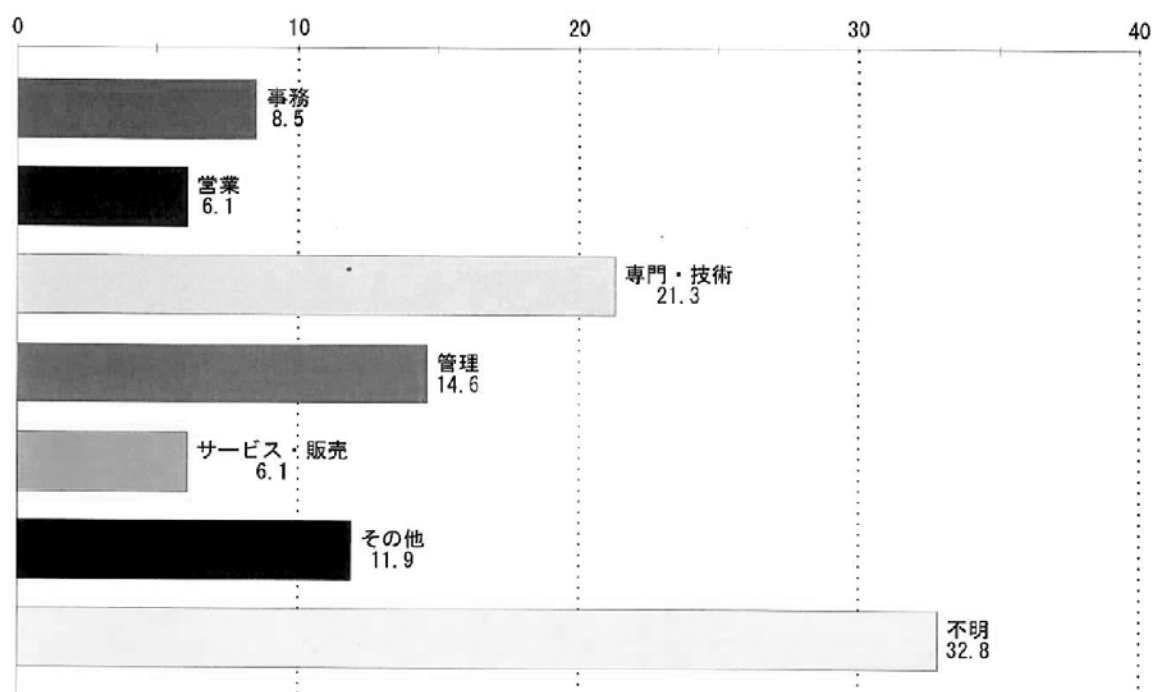
(11)-3職業 n = 329



(11)-3職業 (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	会社員	69	21.0	22.0
2	公務員	15	4.6	4.8
3	自営業・自由業	44	13.4	14.1
4	会社役員	44	13.4	14.1
5	家事専従	16	4.9	5.1
6	パート・アルバイト	13	4.0	4.2
7	農林水産業	1	0.3	0.3
8	無職	88	26.7	28.1
9	その他	25	7.6	8.0
	不明	16	4.9	
	サンプル数 (％ベース)	329	100.0	313

(11)-4 職種 n = 329



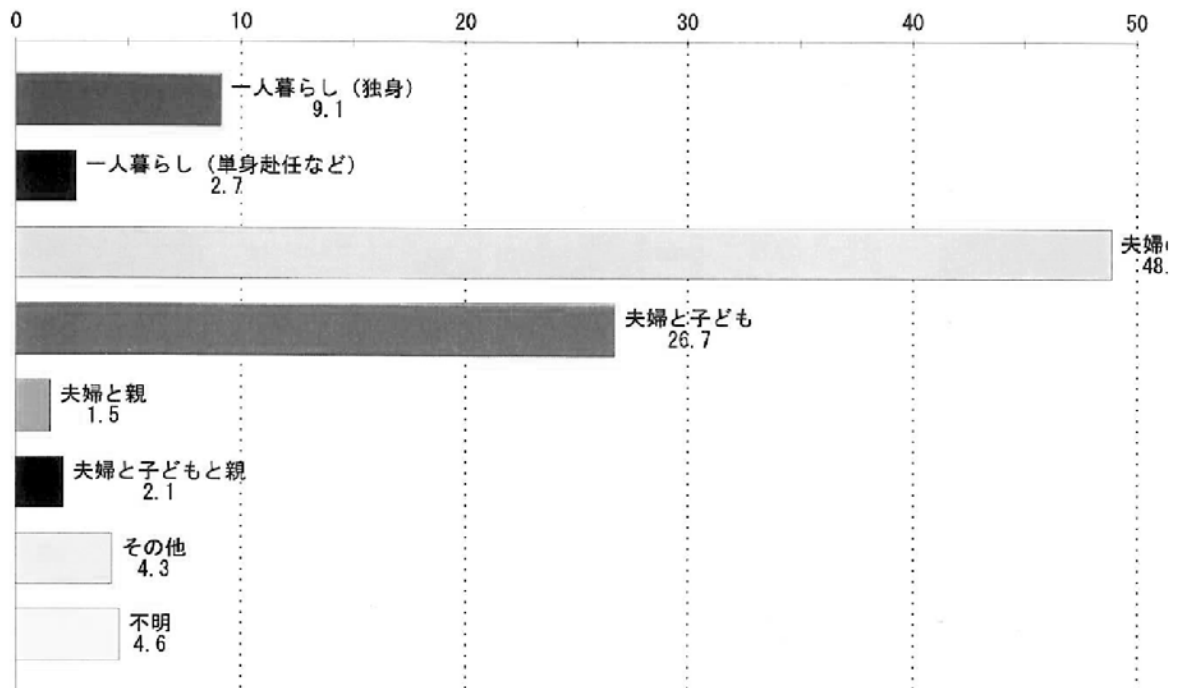
アンケート(2010.0731)

(11)-4 職種 (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	事務	28	8.5	12.7
2	営業	20	6.1	9.0
3	専門・技術	70	21.3	31.7
4	管理	48	14.6	21.7
5	サービス・販売	20	6.1	9.0
6	その他	39	11.9	17.6
	不明	108	32.8	
	サンプル数 (%ベース)	329	100.0	221

アンケート(2010.0731)

(11)-5家族構成 n = 329



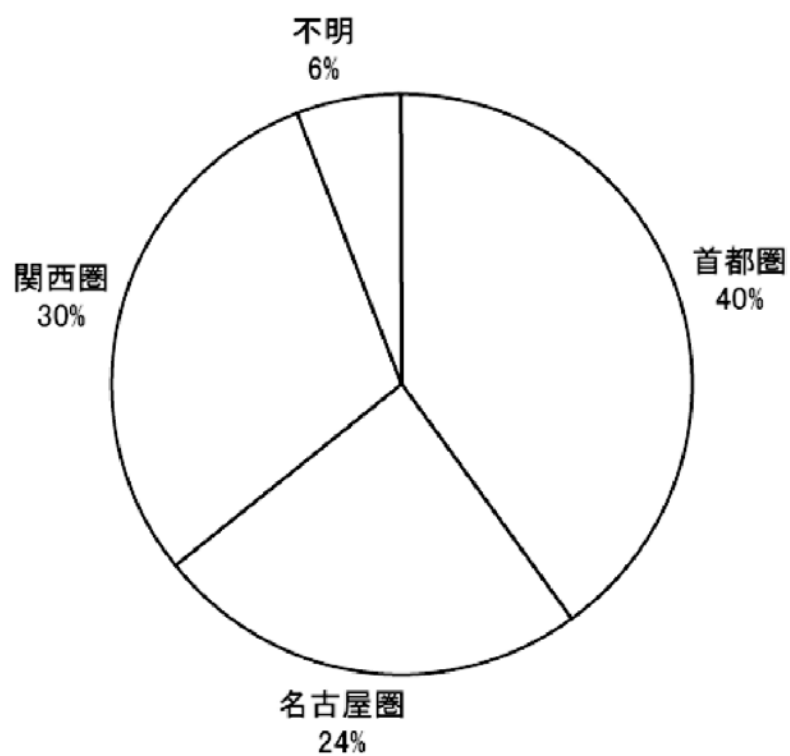
アンケート(2010.0731)

(11)-5家族構成 (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	一人暮らし(独身)	30	9.1	9.6
2	一人暮らし(単身赴任など)	9	2.7	2.9
3	夫婦のみ	161	48.9	51.3
4	夫婦と子ども	88	26.7	28.0
5	夫婦と親	5	1.5	1.6
6	夫婦と子どもと親	7	2.1	2.2
7	その他	14	4.3	4.5
	不明	15	4.6	
	サンプル数(%ベース)	329	100.0	314

アンケート(2010.0731)

(11)-6 現在の住所 n=329



(11)-6 現在の住所 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	首都圏	132	40.1%	42.6%
2	名古屋圏	79	24.0%	25.5%
3	関西圏	99	30.1%	31.9%
	不明	19	5.8%	
	サンプル数(%ベース)	329	100.0%	310

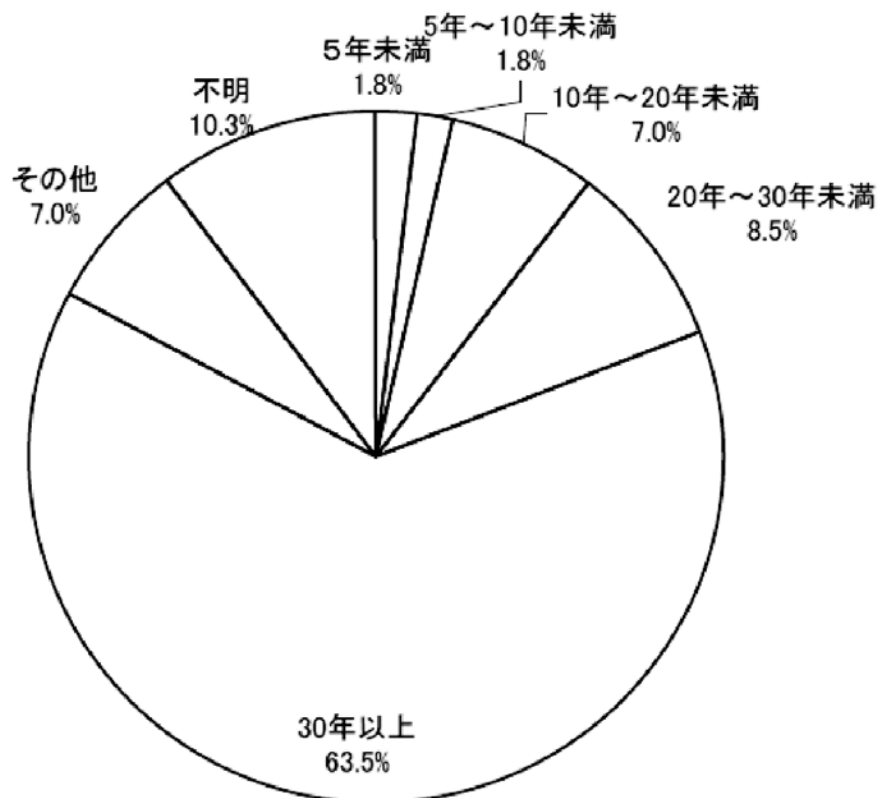
アンケート(2010.0731)

(11)-7出身市町村(合併前) (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	高知市	94	28.6	29.9
2	鏡村	0	0.0	0.0
3	土佐山村	2	0.6	0.6
4	春野町	4	1.2	1.3
5	室戸市	8	2.4	2.5
6	東洋町	2	0.6	0.6
7	北川村	0	0.0	0.0
8	奈半利町	2	0.6	0.6
9	馬路村	1	0.3	0.3
10	田野町	2	0.6	0.6
11	安田村	3	0.9	1.0
12	安芸市	11	3.3	3.5
13	土佐山田町	17	5.2	5.4
14	香北町	4	1.2	1.3
15	物部村	7	2.1	2.2
16	芸西村	2	0.6	0.6
17	赤岡町	0	0.0	0.0
18	香我美町	1	0.3	0.3
19	野市町	2	0.6	0.6
20	夜須町	1	0.3	0.3
21	吉川村	1	0.3	0.3
22	大豊町	2	0.6	0.6
23	本山町	1	0.3	0.3
24	南国市	14	4.3	4.5
25	土佐町	3	0.9	1.0
26	大川村	0	0.0	0.0
27	伊野町	10	3.0	3.2
28	吾北村	0	0.0	0.0
29	本川村	1	0.3	0.3
30	土佐市	7	2.1	2.2
31	日高村	1	0.3	0.3
32	佐川町	10	3.0	3.2
33	須崎市	9	2.7	2.9
34	越知町	6	1.8	1.9
35	池川町	2	0.6	0.6
36	吾川村	0	0.0	0.0
37	仁淀村	7	2.1	2.2
38	東津野町	3	0.9	1.0
39	葉山村	2	0.6	0.6
40	中土佐町	4	1.2	1.3
41	大野見村	1	0.3	0.3
42	窪川町	8	2.4	2.5
43	大正町	1	0.3	0.3
44	十和村	1	0.3	0.3
45	橋原町	1	0.3	0.3
46	佐賀町	0	0.0	0.0
47	大方町	5	1.5	1.6
48	中村市	5	1.5	1.6
49	西土佐村	1	0.3	0.3
50	三原村	0	0.0	0.0
51	土佐清水市	3	0.9	1.0
52	宿毛市	7	2.1	2.2
53	大月町	1	0.3	0.3
54	高知県以外	34	10.3	10.8
	不明	15	4.6	
	サンプル数(%)	329	100.0	314

アンケート(2010.0731)

(11)-8 高知を離れての年数 n=329

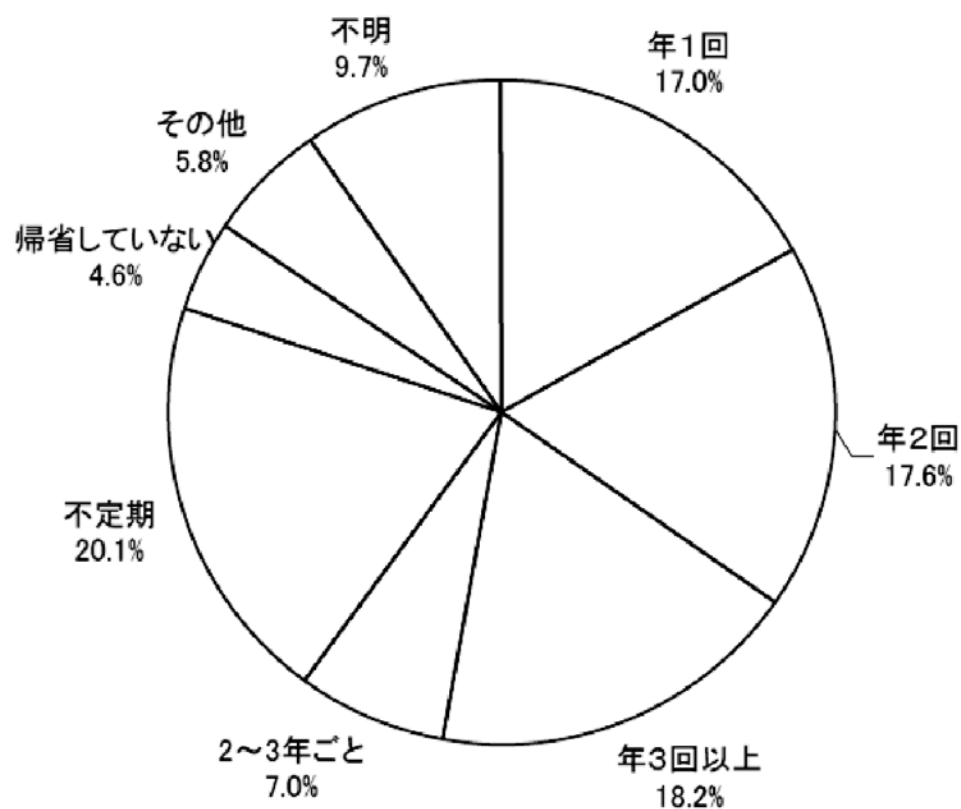


(11)-8 高知を離れての年数

No..	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	5年未満	6	1.8%	2.0%
2	5年～10年未満	6	1.8%	2.0%
3	10年～20年未満	23	7.0%	7.8%
4	20年～30年未満	28	8.5%	9.5%
5	30年以上	209	63.5%	70.8%
6	その他	23	7.0%	7.8%
	不明	34	10.3%	
	サンプル数(%ベース)	329	100.0%	295

アンケート(2010.0731)

(11)-9 帰省の頻度 n=329



(11)-9 帰省の頻度

No..	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	年1回	56	17.0%	18.9%
2	年2回	58	17.6%	19.5%
3	年3回以上	60	18.2%	20.2%
4	2～3年ごと	23	7.0%	7.7%
5	不定期	66	20.1%	22.2%
6	帰省していない	15	4.6%	5.1%
7	その他	19	5.8%	6.4%
	不明	32	9.7%	
	サンプル数(%ベース)	329	100.0%	297

問9

- ・日本不耕起栽培普及会のような、都会の人達が農業に参加出来る方法を構築することが日本の農業を活性化させると思います。(c f) 上記の普及会は、千葉県を拠点に活動しています。岩澤信夫氏の著者「究極の田んぼ」を是非、御一読下さい。(1)
- ・私も主人も高知市出身です。本当は今すぐにも戻りたいのですが、高知において現状の収入を維持できる職業がないので、定年後高知へ戻る予定です。その様な状況の私たちでも違和感なく高知の生活にとけこめるような仕組みがあればうれしいです。(2)
- ・都内で働いているので、同等の給料での職があれば、良いなあと考えていました。もしくは、都内で生活するのと異なり、そんなに生活費等がかからないのであれば、高知での暮らしの必要経費の目安が知りたいです。条件としては、生活するのに最低限の環境が整っていれば…という程度です。(3)
- ・現状で良い(4)
- ・住宅取得にかんする情報(5)
- ・住宅問題、医療・福祉の充実。(6)
- ・医療レベルと医師の確保／郡部が切り捨てられない地域医療／共働きの多いので、安心して働ける、医療介護福祉の見守りシステム／地域所得 etc に見合った療育病床の存続／全国に提案できる地域連携システム(9)
- ・生涯生活する環境、医療福祉サービスが整っている居住環境であれば良い。(11)
- ・電車・バスの交通費が安くなるように70才以上／
おとしよりにやさしい環境を／障害者に思いやりの町を(14)
- ・現在の居住地において治療中の状況であるので、もし、短期滞在中に不足の事態が生じた時の医療機関の連携がスムーズに行われること。(18)
- ・仕事の確保／高齢者に対するサポート面(19)
- ・“全てにおいて自己責任”が基本にあるが、その責任を果たす為の総合窓口(ワンストップでの)があれば安心である。(21)
- ・自家用車がなくても役所、病院への足が安いコストで確保、利用出来れば有り難い。(22)
- ・自然環境の良い住居を選びたい。(23)
- ・自分の資格、経験、特技を活かせるかどうかの情報収集が充実していれば、是非、移住したい。(24)
- ・遠くない将来、お世話になる老人ホームについて、良質なホームに、入室出来る可能性を知りたい。(25)

- ・別紙、私見を参照下さい〈28〉
- ・日当たりの良い部屋に住み、時々庭で、花作りや、簡単な野菜作りをして見たい。そして、図書館や公園が近くにあれば最高。〈30〉
- ・移住してきた人でも、人間関係を構築できるようなサービスがほしい。趣味、サークル、NPOなどが、イメージとして思い浮かぶ〈31〉
- ・交通・医療の確保／IT・本屋などの情報インフラの確保。〈32〉
- ・減税、住宅の斡旋、地域の人との交流〈34〉
- ・自然環境がよく高齢になっても医療、福祉サービスがよいこと。〈35〉
- ・周辺・近所の方々と日々会話があり、生活にうまいのある所／コミュニケーションが楽しみのある場所と、交通の便の良いところ。〈37〉
- ・老後を希望する事となるので、医・食があるかが心配、知っている村ではスーパーも無く不便が多く目につく〈38〉
- ・医療・福祉の充実が全ての判断に対し、基本的事項となるでしょう。〈39〉
- ・高知はやはりはなれた所にあるので、独立してひとつのコミュニティのように、採算をあわせていくようにしないと経済的にキビシイと思います。／うまく循環してまわってゆけたら。暮らしてゆけないことにはどうにもならないのですから。(図、参照)〈40〉
- ・自然環境のよい地区を希望します。〈41〉
- ・移住地区での住民参加活動が活発な事。環境は育った町であり、大きく変化のある事は望まない。〈42〉
- ・高齢者に対して、安心して、老後の保障〈43〉
- ・家族を養う収入の得られる仕事の提供／休日のレジャー／地理的に厳しいですが交通機関の充実〈46〉
- ・日常生活に必要な商店、医療機関、銀行等が近隣にあること／交通の便が良いこと〈47〉
- ・小生の生地は土佐清水市である。交通の便が厳しく悪く、文化はつる国の要である。産地にもかかわらず、魚の値は都会より高いようである。帰郷もヨーロッパに行くより大変である。〈49〉
- ・問10を参照して下さい。〈50〉
- ・税金の優遇、他県には無い試み、関西や関東への移住に対するアピール、なぜ高知かをPRして欲しい〈51〉

- ・私個人は、県在住の友人、知人が居り、県、市（南国市）の広報など、また、県東京事務所の情報等を得ており情報としては充分ですが、そのような関わりのない人にとっては、県の受入れ大勢（雇用励制度、助成のこと）や、事例のPR等を具体的にアンテナショップなどを利用してもっとPRしてはどうでしょう（52）
- ・配偶者が県外出身であるので、もし、将来一人住まいとなった時は移住を考えるかもしれない。その際には高齢者向け、あるいは要介護者向けの施設、住宅、サービス（医療）が充実していることが必要だと思う（54）
- ・医療・介護サービスの充実を望む。（58）
- ・問7で書きました。（60）
- ・移住する地域のコミュニティリーダーの紹介／妻・子のネットワーク作りのサポート（62）
- ・自分のSE経済を活かせる仕事があること。高知に移住する人に減税などの役所サービスがあること。（63）
- ・高知人は心の底が温かい。話し出せばザックバランで自慢が好きな愛せる人が多い。議論も好き。こんな人達（とはいかなくても）出会える、マチ、ムラがどこかにあるはず。そういう人達に会える場所を支援課長さんに教えてもらえれば十分です。（64）
- ・住宅が確保されると（私の場合はレンタル方式）／キャリアを登録して社会参加のメニューを指示していただけること（出来れば事前に）。（65）
- ・働く場所がある事／可能性を感じる事の出来る環境／納得の出来る報酬を頂ける環境（68）
- ・多少不便ではあっても、昔（自分が育った頃）に町並みが残っていたら、もう一度住んでみたいと思います。再開発等で、どこにでもある町並みに変わってしまったら、「移住」の気持ちは失せてしまうと思います。町並みを変えずに災害等に強い街にしていける事を望みます。（69）
- ・住居の確保（低価格の購入又は賃貸料）（71）
- ・飛行機代の補助、増便（73）
- ・住む場があり、仕事があれば。（76）
- ・老後が安心して暮せる環境整備、病気になっても直ぐ対応できるようなシステムがあること。（78）
- ・外からの移住者として社会的にとけ込めるしくみ／医療・福祉サービス（81）
- ・自分で車を運転できる間は、過疎地でも環境の良い処がよいが、移動の手段を失うと、公共サービス依存するのもし訳ないのでケアハウス等に入居することを考えているのでそれらの施設の整備など。（82）
- ・医療と買い物に不便がないこと／自然が豊かな事（83）

- ・高知市内にしか住んだことがないので、他の市町村のことはわかりません。久しぶりに5月、6月と帰郷した折感じたことを書きます。新しい高知駅が出来ていたのに、その下を土電を通してイオン方面への交通等を考えることがないとはもったいない！環境やサービス等にもっと気くばりの出来るプラン等を考えてはどうでしょうか。テレビでみるかぎる高松や富山等人口減少に歯止めをかけつつある町もあるようですが…。〈85〉
- ・仕事があることが絶対条件です。一生、安心安全に暮らせる環境が整っていること、住民が積極的に政治に参加できるまちづくりが進んでいること。〈86〉
- ・老後のセカンドライフとして考えています。しかし、老後の余生をただ時間を楽しんで過ごすだけだと飽きてしまうと思います。何か仕事をやりながら、ある程度の緊張感を持ちながら過ごさないと長持ちしないのでは。私の場合、漁業のお手伝いできる環境を望みます。仕事といっても食うためでなく、張合いを持つための義務程度なものと考えます。〈87〉
- ・老後、安心して暮せる生活環境。〈88〉
- ・自然をいじくり回さないこと。〈89〉
- ・田舎の交通の便が悪い 〈90〉
- ・自然環境に恵まれつつも、災害（水害、地震）に強い場所に移住したい。〈92〉
- ・年寄りが、生活しやすい高知に。〈93〉
- ・医療、福祉（特に高齢者に対するケア） 〈96〉
- ・定年後の移住としたら、上記の10, 2, 4が必要だが、定年前なら8, 5あたりが上にくるはず、いつに（何十代）で移住したいか？との設問にすべき。〈97〉
- ・持病があるので医療施設や医療サービスに関する詳しい情報や内容を知りたい。〈99〉
- ・地方で生活するには土着の情報は重要かと思いますが、それ以外の情報を得ることが地方が生き残っていくために必要であると認識していただき度、高知新聞で満足している現状では発展は望めないと思います。両親の住まう高知に戻ろうと3度チャレンジしましたが、中央との隔たりに（産業、文化、教育）挫折しました。良い物が沢山ある土地なのに本当に勿体無いと思います。〈100〉
- ・私、昭和61年10月から、平成10年3月まで高知高（南国市）の教員として、高知県に住みました。終生高知に住むことも考えましたが、親族など皆東京にいるので、東京に帰りました。もう来年は80才、高知移住は考えられません。〈102〉
- ・ライフラインの充実。〈103〉
- ・1週間～2,3カ月単位での「ウィークリーマンション」型式の格安賃貸住宅の整備、紹介／〈公共交通機関だ

けではとてもではないが県内を巡ることは困難なので)「レンタル」と「リース」の間くらいの格安貸出、自動車、バイクなどの配備<105>

・働きざかりを他県で暮らし、高齢者になってUターンし、高知県に経済的負担をお掛けしては申し訳ないので移住(短期含め)に際し、〇月〇日付で住民票を移せば、住民税が高知県に入る、など、収入のある人はなるべく高知県に貢献できるよう、ご指南いただきたい、と考えます。<108>

・IT、通信環境の充実/医療・福祉の充実/飛行機の値段/他は現状で良い<109>

・自然の豊富なところ/海に近いところ<111>

・高知は妙に物価が高い。東京よりもその点で住みづらい。<112>

・交通や買い物に至便のいい住まいの確保<113>

・自分は移住は考えていないが、故郷の状況をみるに、居住者のいない住宅が非常に多い。一方で多くの人々の住環境はよくない。空家対策を強化し、海と山を楽しめるような環境を整備したらと常々思う。ただし、引退した人々は迎えられても、現役世代はそれだけでは迎えられないだろうが。<114>

・私は室戸市の出身ですが、重い病気の場合に対応がありません。さいたま市の場合には救急車で最適病院を選定して呉れます。全てでは有りませんが安心感と次の選抜があります。父は高知、母は地元で死去しましたが、原因等はよく理解出来ない内容でした。<119>

・高齢者、看護の充実<122>

・環境及び地域住民との関係(日々の生活にして)<124>

・管理がしっかりしていること。出来たらガードマンが常駐していること。別荘地のような落ちつきのあることをのぞみます。<125>

・一人暮らしを支えてくれること。<126>

・医療の充実<127>

・医療、福祉の充実/コミュニティ<128>

・収入の確保(まだ、年金相当では暮らせない)/他県と比較し、ここが優れているとか<130>

・医療の充実<131>

・恵まれた自然を生かした生活を。<133>

- ・医療や福祉が充実していること（特に障害者雇用など）。／一次産業も含め、若者の雇用の場が拡大する見込みがあること（相対的、継続的にそうした動向やそれに取り組む基盤や運動体が認められること）＜134＞
- ・既述のとおり＜135＞
- ・サービスという事が移住に影響するなら移住ではないのではないかと。移住するにあたって、その町が官・民一体となる様子がみられたら、人と人の距離が近づくのではないかと。そのような町なら住みたくなるのではないかと。色々な持ち点があればそれにこした事はないがまた中年を移住させるより、若者の力が発展できる街づくりが必要ではないかと。サービスなら子供の医療費を無料にすると、若者は定着、Uターンするのではないかと。＜136＞
- ・自活は必ずしも容易ではない（サポートする環境づくりが大切）＜138＞
- ・私自身海が好きなので、海のそばで住める場所を確保したいです。釣り場を作って欲しい（横浜の様に）。＜146＞
- ・考えた事がないし、その可能性は0ですから、答えようがありません。＜149＞
- ・山にしろ、海にしろ、長期滞在が可能な安い滞在施設（ペンションのようなもの）があれば、良いと思います。そこに望まれるのは、まさかの場合の医療関係の情報があれば良いのでは。移住する人（家族）を捜すためには、安心なところ、他県出身の高知大生ほかに学生時代に高知の面白さをすりこんでおいてもらうことではないでしょうか。定年後の移住はあまり戦力にならないように思います。＜150＞
- ・関東等県外への交通の便が良いこと／海の幸、山の幸が食せること／ボランティア活動（世の中の役に立つ活動）できること＜152＞
- ・小生老齢のため、①医療体制②介護の体制（社会的）③自然の豊かさ、が非常に気になる＜154＞
- ・交通費、住宅費補助。結果、地域活性化につながるのであれば、ムダな公共事業に税金を投入するのより意義があると思います。＜155＞
- ・就職がないと移住しても生活できません。最低限生活ができ、自分に合った就職先が見つかる環境を望みます。＜156＞
- ・高知は、物価が高いと聞きます。第2の人生を、高知でおくる為にも年金だけでも充分に、暮らせていける、町づくりに力を入れていただきたいと思います。＜157＞
- ・自然環境が良く就労の場、住宅の確保、医療福祉の充実して居る事。＜159＞
- ・移住はやぶさかではないが医療福祉、介護等がちょっと不安＜161＞
- ・移住費用の補助／起業のサポート→高知市内に安く借りられる物件があってほしい。（移住してきて、地域経

- 済の発展を目指すことが条件等) 起業しようとする、業種の専門家の意見を聞けたり、高知で成功するための、コンサルティングを安価でうけれるようにしてほしい。＜１６２＞
- ・重みのある回答なので軽率には出来ません。年齢的にも次世代が多忙な時期なので重荷になりたくありませんが子供と遠く離れる意志はありませんし高知も良い処ですが息子達の職業上移動は考えられません。＜１６３＞
 - ・物価が高いので安く／生活道路を整備＜１６４＞
 - ・高知県は、何をしたいのか！人口を増やすのであれば、その情報発信を！（高知県出身者は、高知がさびれるのを一番さびしがっている。）＜１６６＞
 - ・移住した時、仕事はあるか？何年も帰省するが高知市内でさえ元気がないので、頑張ってもらいたい＜１６７＞
 - ・安い住宅、仕事＜１６８＞
 - ・年金で老後のしく過ごせる環境＜１６９＞
 - ・山村の農林業の家に生れた次男の小生、田分け者になるなかれと故里を離れたからには、今更故里に移住しつづけることはあり得ないと考えるが、時に故里に帰ると山々が荒れて竹ヤブだらけの様相は悲しい。短期間でも里山づくりの市民活動が立ち上がるキッカケづくりを望む。＜１７０＞
 - ・より進んだ医療・福祉サービスを希望します。＜１７１＞
 - ・私は昭和末期の竹下内閣当時の「ふるさと創生費１億円」から、故郷の過疎について関心を持ち、特に橋本知事当時には、ふるさと町民性や故郷のつながりをもつため、父母の眠る故郷に町営等の基地の建設を提唱して、観光施設の充実等提案してきましたが一顧だにされませんでした。いまさら…と云った感じが、強い昨今、ただ、死を待つという心境です。遅きに失していますよ…。＜１７２＞
 - ・全然移住する気がないので具体的には何もありませんが東部の方に行く交通機関がないのももう少し、便利になれば良いと思います。特に空港から室戸方面に伺う足がなくて不便です。＜１７６＞
 - ・上下水道が整っている。＜１７８＞
 - ・故郷なので、条件、環境、サービス等、特別望むものは、ありません。離れた３０年以上なので現在地で家族を持ち生活しているので遠くで思う地の高知です。＜１７９＞
 - ・在阪７０年の夢として、時に想う。若き日も有ったのだと！！８６才の老人。＜１８０＞
 - ・安く家を買えて、自然があり自分の技術がいかせる所。＜１８３＞
 - ・中国関係の仕事交流をしています。高知は林業漁業・観光をASEANに紹介するべき。＜１８５＞

- ・理想は親の植えた木で家建てないで一般の木材の価格ぐらいになる様支援を希望。又、植林の手入れ等の作業についても本当ならば都会で子育てを終え一応の責任メドのつく50代でも仕事としてやっていける様な経済支援や労力支援等あれば50代から田舎で親の面倒をみながら生活できるといいと思う。＜186＞
- ・老人にとってやさしく住みやすい又介護等の世話になれること。全体として老人天国の地域として整備してほしい。又特定として住民税の減税などして余生を安心して暮らせるように望みます。又国道33号線に一本でいいから松山行きを設置してほしい。孫らが帰ってくるのも不便で困ります。＜187＞
- ・あまえに移住するのではないので特別のサービスは望まないが気安く生活できる環境雰囲気がほしい＜188＞
- ・高齢のため、福祉、医療のサービス等。＜189＞
- ・家庭菜園が出来程の庭付の家（空き家）でも用意して下さいなら…。＜190＞
- ・路面電車の沿線／市の立つ所／一戸建て（中古可）庭を楽しむことが出来る家＜193＞
- ・年金取得額で、家賃を支払い、生活できる住宅の提供＜194＞
- ・定年後ですので（移住するとすれば）、住宅、医療について、支援する制度があればと思います。＜195＞
- ・古家でも良い。海が見えること。空家が必要です。＜197＞
- ・自然環境が良い。交通の便が良い。食べ物そして人情。全国どこへ行くより土佐（高知）が一番良い。その自然と人情を求める。私の場合は老後の平和が一番だから。＜198＞
- ・具体的に考えたことがないので、分かりません。＜199＞
- ・本心は高知へ帰りたい、名古屋市へ転居したのは孫は重度の症状をもって出生したので（平成4）その介護のため夫婦で来名した。ドクターは余命は1年内ではないだろうかと医学的に説明してくれた。7歳まで生存したが妻は介護の疲れから孫を残してH10年にガンのため死去しました。高知の戸建住宅は帰高するため空家で所有していたが上記の理由で売却しこちらに居を構えた。単身高齢となり昨年10月老人ホームへ入居（10階建）環境、サービスは、良で駅まで5分で行ける。現況の中で高知へ帰ると県民の皆様にご迷惑をかけるので。高知で生まれ65年。親族、友人とも離れ孤独となると淋しい。即入居できる老人ホームが存在しているかどうか＜201＞
- ・生家に帰るので、条件・要望はありません。＜202＞
- ・高齢者に低負担でバス電車のパスを発行し、どんどん外へ出てもらいましょう。帯屋町大橋通りでも買い物してもらいましょう。動くことで身体も元気に暮らしてもらいましょう。シャッター通りでは寂しい。お店も活性化しましょう。買った重い荷物は、自宅までお届けサービスもいいですね。セカンドハウスとして住宅を所持する場合、不在時の管理に支援があると有難いです。＜203＞

- ・高知はクレジットカードで支払いできる店がありません。今時カードが使えないとはあまりにも田舎という印象です。＜２０５＞
- ・希望なし＜２０８＞
- ・特になし。しいていえば、山道の道路の整備でしょうか＜２０９＞
- ・空気がきれい。海、空の色が青い＜２１４＞
- ・住む家を確保してほしい。もちろん家賃は払う＜２１５＞
- ・問８.と同じ＜２１６＞
- ・土地、家の価格の安さ＜２１８＞
- ・徒歩圏内に総合病院があり、現在も通常的に通院し健康管理ができています。通院病院の整備。／乗用車も処分運転免許書も返納。然し、電車、バス等公共交通網が完備しており、不便は感じない。移住すれば、交通機関が心配。＜２１９＞
- ・条件とかサービスは余り望みませんが、生まれ育った高知で、のんびりと過してみたいと思っております。子育ても終りちょいちょい、帰高し兄弟でにぎやかに、昔話に花を咲かし、少しの時間でも過したい。故里なつかし！！です。＜２２４＞
- ・健康に高知の自然は良いと思う。健康ならば、仕事をしたい。雪国では、シニアには除雪は大変です。そちらへ働きいける様に＜２２６＞
- ・条件ではなく希望ですが、今後、高知県が発展するためには、ハード面でもソフト面でも、そして県民性としての自説を曲げない、閉鎖性等あらゆる面でバリアフリーを実現する。高知県を１つの独立国としてとらえ、開拓する。医療、住環境、食の安全、文化の充実、人生の終の住みかを決めるなら、高知県で！！というステイタスを作り上げる。道路、交通のあり方を見直し、平野を広げる。街と街の地理的拡張を取り、人的交流を活発にし、県内の物流を見直し、海の幸、山の幸を自由に流通させるシステムを作る。全ての税を目的税とし、高負担、高サービスで日本一住みやすい街にする。県議・市議・公務員・経済界を含め能力のある人はあらゆるプロジェクトに振り分け、県民との対話の機会を設け、１人１人が時間とお金を出し合って、未来の高知県を作るシステムを練り、５０年、１００年後の高知県を素晴らしい県にするべく、日本中の県のよい所を取り入れ、智慧を出しあう。将来的には新幹線を作り、あらゆる文化と芸術を楽しめる豊かな老後を過ごせる日本一の県にする。＜２３４＞
- ・高知県のアンケート調査は、県内在住者に限る等と閉塞的の多い中で、開放的積極的で良い計画であると思う。移住は短期で自然に生きる環境、人間性豊かな感謝や絆のある生活がある所を希望する。＜２３７＞
- ・移住希望に適する住宅の提供／短期就労場所、機会の開示提供＜２３８＞

- ・ 公共の交通に便利な事<243>
- ・ 移住するための経済的支援<245>
- ・ 仕事ができること<251>
- ・ 再就職（50～60 才代）支援
- ・ 高齢者に対する対策はどの程度できているか<255>
- ・ 安い老人ホームをもっと作ってほしい<258>
- ・ 道路の整備（香北町美良布～谷相）<260>
- ・ 知人が多くいる場所/医療が充実している所<269>
- ・ 交通の便が悪いので、帰っても不便/車を運転できなければどこにも行けない<273>
- ・ 年を取った時のサービス/医療機関やデイサービス店舗などが近くにある事<274>
- ・ 就職または起業の条件を確認したい<275>
- ・ 医療の充実/高齢者向け施設の完備<279>
- ・ 出身の安芸市を考えたことがある<283>
- ・ 先住民の方がどのような気持ちで移住民を受け付けてくれるのか？移住に対して反感をいっているのではと思う<288>
- ・ 福祉がどこまで進んでいるか？<292>
- ・ 問 8 の 6 番→具体的な作物の作り方<299>
- ・ すでに短期間滞在方で年 2～3 回行くことにしている<301>
- ・ いの町や近くの市で、陽当たりの良い、畑付きの一軒家を安く貸してくれるなら、大変興味がある<302>
- ・ 私は年齢が年齢ですので、帰りたい気持はあってもどうすることもできません<303>
- ・ 年金生活者の後期高齢者ですが、同期生がまだ御健在ですので、後々訪れたいと思っています<304>
- ・ 就、転、起業サポート<305>

- ・ 普天間の米軍海兵隊を期限付きで県内に受入れ、県西部まで新幹線を通すこと<306>
- ・ 自然環境は良く、歴史文化遺産に恵まれた高知なのに…。若い人にとっては、やはり仕事（広い意味での）の有無でしょうね。他県から高知大に来て学んだ学生は、高知に残ってますか？食べれないから移住する（かつてのハワイ移民の）時代ではない、と思います。「ゴーギャンがタヒチへ移住」をモデルにすべきでしょう。学術、芸術、情報などを種に、例えば「林業については学問も実習も事業も、全国一」であるとか。簡便、総花は駄目です。じっくりと時間をかけて考え、やってゆきましょう。博物、資料、記念館などでも、例えば「紙」なら土佐和紙だけでなく、紙のことなら全国一の博物館だとか。いつまでも「リョーマ」だけではいかんちや、それに持たんぜよ。現代文学なんかも柱になるのでは（マンガのように）。幕内の相撲取りも高知出身は多いよ（賭博でトラブってるけど）。懐かしい古郷のことゆえ、つい筆が走り、悪乗りしました。具体的には、文化財を作って来住を待つとか、実習も出来、事業も学べる林業大学校（全国一でなければならない）のようなものをつくるとか<307>
- ・ インフラの充実/生涯学習など、生活に厚み、出会いの可能性が広がる場があれば良いと思います<309>
- ・ 私はふる里をととても大切に思う一人です。私自身は子どもの頃の楽しい思い出ばかりが多くて、主人等とは違った子どもの頃の自然も味わう事ができました（主人は愛知の生れです）。今ふる里の人口減少はとても悲しい事です。自然の山や川、美しい星空、空気——都会では味わう事の出来ないですが、若い人達の働く場も少ないのも問題で。<311>
- ・ 医療、福祉等の安心<313>
- ・ 全く移住は考えた事はありませんので、条件等の望みはありません。年に1度は墓参などで必ず帰っております<314>
- ・ 立地条件的にみて極めて産業が育ちにくい高知である。他県のメーカーは海外レベルで高知をみているであろう。他県の大手メーカーに働きかけ、産業の誘致にもっと熱心であるべきと思う。日本の歴史に興味を湧いている昨今、歴史的な名所が豊富な高知へ観光客を誘うべき。特に龍馬ブームの近年がチャンスと思う。PRが下手！自然増的に観光客が来ている感じ。もっと奇抜なアイディアでPRすべきだと思う。例えば岩崎弥太郎が高知出身者であることを龍馬伝で初めて知った人も多かろう<319>
- ・ 今は、家族と不自由なく暮らせているが、これから高齢者に向かうが、その時に移住しても満足できるか、単に故郷を懐かしく思うだけの気持ちでUターンするのは不安がある。万一Uターンするとして、不安なく暮らせる保証があるか不明心配です<320>
- ・ 経済的支援（住の確保、農地の確保など）/人とのつながり、支援してくれる人<321>
- ・ 地域にとけこみ、住みやすいことが必要<322>
- ・ 1, 仕事があること（労働条件も都会と同じと言うわけにはいかなくても、生活出来る水準である事）2, 住宅、エレベーター付きの公共の住宅<323>

- ・移住するとしたら、老後のゆとりを楽しみたいですので、医療、福祉の充実を希望します<324>
- ・農業の出来る所と空き屋がある情報<325>
- ・医療、福祉のネットワーク、情報が充実していること/教育関係で再就職できるネットワークの情報があること<327>
- ・現在の居住地でそれなりの生活スタイルを築いてしまっている。友人関係、子ども達の生活、街の雰囲気やインフラなど住環境の把握と活用など、身に染みついているものをサラッと捨てるわけにはいかない。移住したとしても、こうした個人生活の資産を引き続き活用できるような仕組み（交通、住居等の利便性）がないと、寂しさや不適應を感じることになりそう<328>
- ・特になし<244, 315>

問 10

- ・医療センターを郊外へ配置したことに残念な感じがします。高齢になると車の運転もしづらくなるので、公共機関の発達している中心部がよかったのではないかと考えています。中心部に戻すお考えはないのでしょうか？〈2〉
- ・特になし、現在必要としていない、必要になった時転居も含めて考える〈4〉
- ・高齢社会に対応できる体制作り。人材の育成と費用負担問題。（個人と県の収入も課題）〈6〉
- ・県外で働いている人が戻れる就労環境や企業・創業をサポートするシステム／若者が働ける産業／高知県だけ・only oneの魅力〈9〉
- ・普通の医療・福祉サービスが受けられれば。現在は定期的な医療・福祉サービスは受けていない。〈11〉
- ・通院・在宅医療の充実〈12〉
- ・独居老人が多くなると思いますので、墓場までお世話してもらえそうな制度が欲しい〈14〉
- ・現状の県の医療・福祉等の体制がよくわからないのでコメントできません。〈19〉
- ・気候温暖、人情豊か、食育豊富、自然環境豊か、歴史・文化的環境良好、等々、これ以上セカンドライフ高齢者が住む良好な環境は無い。／高齢者医療、福祉サービスを充実して“高齢者立国高知”を宣言したらいかがですか？〈21〉
- ・問9の意見に同じになるのかな？〈22〉
- ・高知県は広いので、遠隔地でも上記のサービスが充分に受けられるかどうかが不安である。〈24〉
- ・現在住んでいる東京では、医療・福祉のサービスには、不安が大きい。かつて、育った古里の、暖かい環境のなかで、そこそこの医療・福祉サービスを受けて、安心したい。〈25〉
- ・緊急時の対応が確保されている／都会と同程度のレベルの医療が受けられる／年をとるといろいろ具合が悪くなるので、開業医用のネットワークも効果的かも。〈28〉
- ・高知県はお医者様が全国で1，2程沢山いらっしゃる、とか聞いています。それを活かして他の県にないサービスを考えられたら、いかがですか？高知の人は皆人柄が良いとの評判です。〈30〉
- ・負担増はある程度は仕方ないと思う。サービスレベルの維持をめざしてほしい。〈31〉
- ・県下の上記設備が充実しているところ、高齢になるほどに懸念する医療、福祉のサービスを期待しています。〈37〉

- ・高知県の医療・福祉サービスの実態について把握できていないので、何ともいえませんが、救急・医療体制の充実が望まれます。とくに、郡部、山村部での対応は望まれると思います。(39)
- ・元気な高齢者をどんどん採用してポックリでも、コロリでも、ゆかれるその時まで支えあってゆけること。必要とされる場所を作ること。(40)
- ・身近なところに高度の医療サービスがある事(41)
- ・高知県の医療・福祉サービスの現状が、ようわからんので、何とも言えないが、一部地域に限られているのではと推察します。(42)
- ・グループホーム等(都会では高額な費用を要する)高知県の施設、サービス見聞で良いと思われるので移住したかった。が、震災で自宅が崩壊したので、思いがかなわなかった。残念。(43)
- ・小生老人になりましたが、医療・福祉サービスを受けるつもりはありませんので、関心がありません。過剰な医療・福祉サービスは不要と存じます。(49)
- ・大都市では高齢者の急激な増加に伴い、医療・福祉等のサービス低下が懸念されています。→この認識に異議あり。大都市ほど消費者選択の幅は広いのではないかと。ほんとうに高齢者の移住を歓迎するのであれば、末期高齢者に延命治療でないサービスをする施設を考え、そのPRをすべきでしょう。(50)*
- ・豊かな自然環境を売りにして、年金生活者に焦点を当てた農親しむ(菜園程度でも)ことの出来る仕組み(低い生活コストで)施設などを考えてはどうでしょう/地元の高齢農業者がサポート支援するなど。(52)
- ・情報不足で、意見がありません。(54)
- ・医療・福祉サービスの充実が老後の生活を安心して過ごすためには、大変重要なインフラである。病院、介護施設が充実、拡充が大切である。(58)
- ・原罪ではありません。(60)
- ・予防医療の充実/在宅介護のサポート体制に充実/住民自らが地域の医療機関を支える意識の醸成(62)
- ・大都市では人口が多すぎて、すぐに行動には移しにくいと思われるが、高知はそんなことはない。高齢化社会のパイロット県として、色々とチャレンジし、全国一のお年寄りが元気で、すてきな県にすべき。スウェーデンでの福祉国家もヒントの一つかと。(63)
- ・健康寿命日本一を目標にしている県です。広い県ですが、救急医療体制(ヘリコプター利用)高度医療施設の病院(センター)との30分ネットワークを作ってほしい。介護は市町村、NPO、地域住民一体となった“隣人パスポート”を持ち合って助け合えるようにしたらよいと思う。(買物、通院、通学、の介助などなどやることは限りなくあるはず。パスポート区域は旧村単位ぐらいか?)(64)

- ・移住者が広域に散在していても医療ネットワークを構築することによって不安を解消してほしい。〈6 5〉
- ・コミュニケーション出来る場所を気軽に探せるサービス／いい意味でのIT環境サービスを作る事／医療従事者のサービスへの意識改善／高知に27年住んだ中で、全てにおいて満足したサービスを受けた事がなかったです。〈6 8〉
- ・各サービスの情報を提供しあえる地域（町内会等）のつながりが大事かと思います。〈6 9〉
- ・医療サービスの充実 〈7 1〉
- ・地域医療がますます重要になっている現代。高齢化の進む高知においては、高度医療が望まれると思われる。これらの充実、又、高齢者の多い、限界集落地区の手厚い医療の実現。デイサービスの充実。〈7 8〉
- ・側聞するところでは人口当りの医療の数は多いそうですが、高知市に集中しているらしい。他の市町村でも拠点的な医療施設はあるのでしょうか。〈8 2〉
- ・高知県は大企業がないので働き手として福祉等には若い人が多いのではないのでしょうか。住みよい町として医療・福祉サービス充実をアピールしたらよいと思います。住、衣はともかく食だけでも地産地消でおいしいものにするとか、如何でしょうか。〈8 5〉
- ・利用者が望むサービスを利用できる体制づくり、事業者の労働環境の改善、保険料負担者が安心できる維持可能な制度づくりをして頂きたい。そして遅れているバリアフリー化の促進をお願いします。〈8 6〉
- ・現在の高知県の医療・福祉サービスの水準がどの程度であるかわかりませんが、少なくとも大都市より優れていることが重要である。〈8 8〉
- ・高齢者が一生何らかの仕事ができる環境作りが必要 〈8 9〉
- ・緊急時の医療体制が充実していることを望みます。高齢者が高齢者だけで暮らしていても、いざという時に助けてもらえる体制があれば安心して住むことができます。〈9 2〉
- ・年寄ると病気もだんだんと多くなるが…医療福祉重点を置いて下さい。〈9 3〉
- ・高齢者が増えて来るのは、税収の低下になると思われる。医療・福祉サービスを重点視するのならば、若い人には、働ける産業を作り、地域での保育所等をタダにする等の施策をとるのはどうだろう。そのために定年後人間をボランティアで使って、ありあまる時間を使わせる。ただし、人をしっかりするためにも夫婦で参加させるとか、誰かの紹介で働かさせるとかを考える。〈9 7〉
- ・物価が安いので、生活をしやすいと考えているが、過疎化が一層進み、医療福祉などの充実は、かなり難しいと思っている。〈9 8〉
- ・へき地が多いので沖縄等で行っているようなヘリコプターの緊急サービスの充実が望ましい。〈9 9〉

- ・医療・福祉等のサービスは所得に比例していると云えるので、都市、地方は関係無いのが今の日本だと思います。大都市に比べ、サービス低下が低い根拠が不明ですし、近い将来、高知に在住している両親の介護については交通費の負担がかなり有り不安に思います。〈100〉
- ・ボランティアネットワークの拡充。〈103〉
- ・既に梶原町辺りなどで行われている、森林浴+医療サービス、のようなイベントや活動への参加がもっと手軽にできるよう。例えば、高知空港からの直行往復バス便などの整備が必要だと思う。〈105〉
- ・医療・福祉サービスを充実するには費用がかかりますので、収入のある高齢者からは応分の費用負担が必要だと思います。また、高知県の豊かな自然を生かし、病気にならない健康な体づくりをアドバイス（禁煙や油を減らす、運動習慣、食事など）していただくなど医療負担の少ない人生の過ごし方を考えることも大切だと思います。〈108〉
- ・県を上げて介護の県にすれば良い。それに徹する。子供が集まる。企業が集まる。都市化不要。年寄りの元気なまち高知！〈109〉
- ・拠点病院の充実／ドクターヘリの充実〈111〉
- ・親せきが病院で最期をむかえました。（長く入院していました）都会では長い間病院にいられないので高知は恵まれていると思いました。〈113〉
- ・過疎の町の出身者としては、地域の中核となる医療施設にアクセスする手段が車（タクシー含む）以外にないのが苦しい。〈114〉
- ・上の理由をふまえて申すならば、高知で病院したら不安です。生前に母のたのみで予約（AM7:00頃）にゆきました21番目です。命をえてみなその世界に入りますが、痛を保っているのは自分です。〈119〉
- ・日本一の健康寿命県構想には食事、たばこ、歯、こころ（睡眠）、健診が入っていましたが、排泄がありませんでした。ねたきりにならないために外出できるのは排泄に問題がない場合と思います。排泄もポイントの1つとして入れて欲しいです。〈120〉
- ・医療の充実最も大切だと思われる／いつも県の情報提供いただきありがとうございます。〈124〉
- ・近くに医療機関のあることをのぞみます〈125〉
- ・高知市内に東京水準の医療サービスがあること。〈126〉
- ・内容がわからないので書けない〈127〉
- ・全国共通の問題。税金の有効活用。負担の公平化。〈128〉

- ・高齢化は高知県の方が先に行くが、県全体、県民全体で支える取り組み。／要は、大都市とは、ここが違う。あるいは、こう変えるとか。＜１３０＞
- ・高齢者仲間の楽しい生活を＜１３３＞
- ・「高齢者」県であり、また若者の就労先が無いのであるから徹底してシルバー産業の振興を図り、就業人口も拡大させたいかと思う。／現実にはシルバーの現状の労働は「３Ｋ」であり、定着等に問題があると思うので、施設整備に加えて、労働環境の改善や待遇面で全面的な見直しを行うべきである。＜１３４＞
- ・充実を願うのみ＜１３５＞
- ・介護者仕事への身分向上と手当の充実／高齢者自身が健康に気をつけて、医療を官・私共に軽減できる工夫／かかりつけ医と大病院の使い分けをする意識が必要／看護師を目指す人への補助（高年齢者も資格を目指す→将来の人手不足も今から手当できる）／医療にいたらない相談窓口ネットにより、公的医療費を下げて、その分ネットワークに資金を投入（新たな雇用にもなるのでは？）＜１３６＞
- ・高知市に一極集中し（県内格差）、それ以外の地域でのサービス低下が傾向、懸念。＜１３８＞
- ・医師、看護の方とのフレンドリー（親しみ）な関係でありたいと思います。都会にはない医は仁術という医師に接したい。こちらも体調に心から気をつけます。＜１４７＞
- ・高知市から離れたら、医者がおらんと聞き及んでいます。医者の子どもが医者になる確率が高いことから、在郷の医者の愛郷意識を植えつけること。郡部の医療の中核都市（安芸や旧中村市あたりか）をうたって、医師を優遇し、郡部の人達も安心できるようになることが考えられます。東京では町医者の数は多いですが、地域の安心になっている医者は、あまりいません。縁がない医者が多いようです。＜１５０＞
- ・天命に従う＜１５２＞
- ・県内都市部のみならず、山間部、僻地における医療施設の充実。＜１５５＞
- ・高知県は高齢であると思います。地方でもより良い医療が受けられる様交通の整備等が必要だと思います。＜１５６＞
- ・まずは、若者達の職場づくりからですかね。今の子供達が高知から離れないようにしないと。多くの税収が望めません。高知県、各自治体に、お金が無くては、より良いサービスを与えられないのでは？高齢者（今まで高知を支えていただいた方）を守るためにも、多くの若者の確保をよろしくお願いします。＜１５７＞
- ・地域の職場環境を整備し、医療・福祉の街造りを行っていくことが、住み良い高知を作ることにつながると思う。しかし、住み良いからと、高齢者が高知に移住することになれば、大都市と同じ状況になるだろう。それを防ぐためには、若者を高知に呼び込まなければならない。そのためには、様々な対策を考えなければならないのではないか。e x 大学の充実／税金のu p（県民の理解の上の増税）／都市整備／医療や福祉のプロを育成する機関と補助制度の公共交通機関の整備。＜１６２＞

- ・夫が生存中なら短期間でも医療の方に奉仕出来る事が出来たかも…（２８年前に病死）＜１６３＞
- ・大都市と比較する位置にない！その必要もない！高知は、高知 どの都市にも負けない施策をしてほしい。高知に来れば健康になれるというそんな都市の構築を望みます。がんばって下さい。＜１６６＞
- ・夫婦が高齢になり医者に行きたくても車が必要な時に車のサービスがあれば。／スーパーなどのネット販売＜１６７＞
- ・自然療法の取入れ＜１６８＞
- ・介護サービスの状況＜１６９＞
- ・現状で充分！ぜいたくが人間の生きる力を失わせていると小生は考える。高知県の医療・福祉サービスが他県に比して遅れているとか、充分でないとは決して思わない。＜１７０＞
- ・大都市にくらべて、高知県では医療・福祉サービスが進んでいると思います。＜１７１＞
- ・土佐の田舎では医師もいません。それより高知市に出ようとしてもドン行列車（一輛）３時間に一本位ではないですか。ともかく、なつかしく、思い出多き土佐ですけれど、もう何もすることもできないことをご了承ください。＜１７２＞
- ・医療・福祉が充実されるよう願っております。＜１７５＞
- ・大都市より高知の方が医療機関が充実しているとは思わない。＜１７８＞
- ・全国トップレベルの老人医療費など、問題は山積みだと思います。老人が、費用の面などで心配なく、生活できる高知であってほしいと思います。＜１７９＞
- ・医療施設の充実を望みます。＜１８３＞＊
- ・老人を廃校など利用して生活協同で行う／老人の経験を利用して田舎の産品作り、農業作り近代化が必要、農産物作りと加工・販売ルートの確立アジア向け＜１８５＞ 名刺付
- ・都会の高齢化では、深刻な問題になるでしょう。地方とて同じですが、地方は現在すでに大きな問題であるが同時に若者を定着させ子育ての充実政策をとると少しは解消されるのではないだろうか。それには今、今が大切、若者の就労条件を整え、出生率増加の政策方針が急務だと思う。「若者に魅力ある高知」（市内だけでなく地方山間部も）を実現させて欲しい。＜１８６＞
- ・過疎地における救急医療をシステム化してほしい。ヘリコプターの整備とか…。＜１８７＞
- ・高知県は医療・福祉サービスは大都市より充実しているように思います。＜１８８＞

- ・ 学生時代まで、高知で生活していたので、老後は楽しく、のんびりと、生活できる環境が欲しい。今でも高知は古里で、大好きです。だから県人会にも入っています。＜１８９＞
- ・ 高知県は、良い病院があるらしいので、老人福祉サービスを充実させて欲しい。＜１９０＞
- ・ 自分が医師であるだけに、日本の現在の医療、特に老人、小児を含めて、福祉の一日も早い改善を望みます。小泉行政の悪を反省して、民主党にも、自民党にも全ての党に！！努力していただきたい。＜１９２＞
- ・ 高知県は病院が乱立しているから大丈夫だと思います。＜１９３＞
- ・ 現在、大都市よりも、高知県の医療・福祉サービスが低く、今後も拡大すると考えています。＜１９４＞
- ・ 高知をはなれて、３０年以上たち、たまに（４～５年に１回）行く程度ですので現在の高知の状況が良くわかりません。＜１９５＞
- ・ まず３次救急設備が近くにあるか？＜１９７＞
- ・ 高知県は病院も多い（市内の場合）。老人でも安心する。＜１９８＞
- ・ 行政の財政がしんどいと、何処に住んでも変化が余りないのでは？＜１９９＞
- ・ 高知市内に高度医療施設が集中しすぎ。県内に分散して配置してほしい。＜２００＞
- ・ 少子、高齢化とは国は統計学から既に判っていたのに国家予算の編成で老人ホーム（有料や特養）の建設など手薄であり社会的にも大きな行政課題の位置にある。今や中学校区に一ヶ所（大げさかな）の老人ホームが必要となってくる。高知県の老人ホームの設置数と入居待ちの資料があれば知りたい。＜２０１＞
- ・ 現在の医療・福祉サービスレベルを理解しておりませんが、少子・高齢化による人口減少となり、税収減となっていると思っていますので、各種サービスの維持向上を要望するのは申し訳ないと思います。＜２０２＞
- ・ 例をみない超高齢化社会日本ではどこにいても同じ様な不安はあります。高齢者も現役世代も子供も安心して暮らせる社会であって欲しい。手助けを必要としている人に手を貸し借りられる社会であって欲しい。一歩前に進む施策をお願いします。＜２０３＞
- ・ 高知市内に出来た医療センターの評価が、あまり良くないとの噂を聞きます。医療は充実していないと…。＜２０５＞
- ・ どのような状況なのかさっぱり分からない。＜２０７＞
- ・ 高知市で実際に父が介護サービスをうけており、入院先のサービスにもとても満足しております。ケアマネさんのご尽力に感謝です。緊急体制も医療サービスも道路整備も確実に良くなっており、うらやましいぐらいです。私も高知県で介護サービスをうけたいと思っています。現場のサービスも大切ですがケアマネさんの育成

も大切だと思います。ケアマネさんが現場を見学し良く特養を把握していることがとても心強く、ありがたいことです。＜209＞

- ・大変良いと聞いています。今のレベルを下げない事です。＜210＞
- ・在宅カイゴ、高知県が高齢者に対して、福祉サービスの徹底してほしい。＜214＞
- ・住宅の近くにお医者様がいます。買物出来る店がある事＜215＞
- ・介護付高齢者住宅（有料、なるべく安く）→場所は過疎地＜216＞
- ・個人負担の少ない医療費＜218＞
- ・実母が個人病院に入院中、病院側の不親切な取扱に立腹していた。安らぎが得られる医療施設を望みます。＜219＞
- ・農業従事者の生活向上を政治的な施策として取り組むべきです。＜223＞
- ・高知県の医療福祉サービスについては余りよくわかりません＜224＞
- ・青い海、青い空、たべものは新鮮でおいしい、Co2 少ない。日本の各県に1番、自然、風土の残された県だとPRをもっと、土佐は良い国、南をうけて。＜226＞＊
- ・今後、高齢化社会を迎え、高知県が日本一住みやすい街となることが一番の近道と考えます。国、県、県民が1つとなって、「日本一質の高い全国トップクラスの医療・福祉サービスが受けられる」という評価が得られれば間違いなく人は集まると思います。但、高知にはこんな風なことをやっています～程度ではダメ。高知出身の医療関係者が、望んで来るような環境を考える。＜234＞
- ・高知県の医療・福祉機関の情報に無知で意見のだしようがない。けれども、それらの機関はできれば身近に在る方が望ましい。それよりも、高知県の教育程度（現在ワースト3）を改善し、創造的想像力の育成に取り組まないと県の発展は期待できない。＜237＞＊
- ・医療の充実が最低の条件。急病の対応、処置をきちんと行う環境を整備してほしい。＜238＞
- ・まず、信頼や最新鋭技術、設備のある日本国内や海外の病院、研究施設とのネットワーク整備。人材や設備不足が否めない状況だからこそ、グローバルにオープンになり、情報だけは確保していく必要があります。常に情報をひろっていけば、そこに必ず医療サービスの充実のヒントがあると思います。＜245＞
- ・施設と費用について＜255＞
- ・問9と重なるが、病院まで行く足がない＜273＞

現状が分かりませんので、特にございませ<275>

実行不明<277>

1人暮らしでも安心して暮らせるサービス→バリアフリー住宅の整備/救急医療の整備<286>

必要な時、必要な場所、必要な治療を受ける事が出来るのか？<288>

受入れ施設の増加<299>

市町村単位で、どこでも平均的な医療、福祉等のサービスが受けられること<301>

高齢（78才以上）になれば、高度な医療技術のある病院で延命は必要ない、と私自身は考えている。ただし、その年になるまでは、救急医療が受けられる体制はほしい、と考えている<302>

今私の考へる事は長生しても元気でないといけないと、そんな事ばかり考へる毎日です<303>

介護 NPO 等を支援し、地域内の見守りを強化するといいと思う<305>

市役所の福祉の窓口の担当者などの態度が相変わらず良好とは云えない。例えば、名古屋などに見学に来てみれば、その差が歴然としていることが分かるでせう<306>

高知市、高知県の実情はわかりませんが（以下、想像で書きます）、大都市の問題の一つは“孤独死”でしょうか（高知では如何？）。大都市部では、サービス主体も多く、交通の便も良く、又、福祉サービスもお金をかければ何とかあります。県民所得が低位にある高知県では、特に福祉分野で、低所得でも、必要にして十分な、人権が守られる、在宅、施設サービスを、行政も援助して進めるべきでしょう。それは上記の問9の答えの一つにもなります。（福祉を地場産業として育成すべきです）。医療では（お医者さんは多いんですけどかね？医療費が多い？）、伝統ある高知女子大の看護学部あたりを、日本の看護学の一つの拠点にしてはどうですか？乱筆乱文ご容赦を！<307>

自然環境の良さをウリにした高齢者が安心して暮せる施設を作る。それにより雇用の機会を増やす。<309>

父や母を診て頂いて思ったのですが、人間的なつながり、人間いつかは死に直面するのですが、一つは不思議な安らぎみたいなものが感じられます。これは囲いの温かみ、土地柄なのでしょうか。福祉のことについては余り解りませんが、救急の場合助からない場合もあるのかもしれません。そのことは一寸心配ですけど、私はふる里はとても安らぎのある場です<311>

子ども達の世話になるので、全く考えたことはありません<314>

名古屋よりも高知の方が医療福祉等が良いとは考えにくい。空の便も悪くなれば、今迄の様に姉妹や友人に会いに帰ることも出来なくなりそう…なつかしいおいしい物を食べるのもむつかしくなりそうで淋しいですネー。もうすぐ山桃の時期ですネー食べたいネー<316>

- ・ 県を日本の医療、高齢者、福祉の特区にし、様々な優遇策を行うこと。～高齢者天国へ。人の活用～看護師の育成活用～雇用の場/辺鄙な地でも、人が住みたくなるメリットを多くしないと人口減、衰退へと進む<317>
- ・ 高知県がそれらにどの様に対応しているか知らないので答えようがないが、収入の少ない高知で暮らしても、そんなに食べることに困る訳でもない。消費税 up で他県は更に生活に困る筈である。そんな中、暮らしにそんなに困らない、環境的にも住みやすい高知を、全国レベルでPR 出来ないものか一考を望む<319>
- ・ 暮らす地域での医療の充実…住み続けたい、それを医療が支える体制を要望<321>
- ・ サービス低下の要因は自治体の費用増大にあると思われる。①医療や福祉を専門の機関に任せるのではなく、その一部簡単な部分を準高齢者にボランティア対応にて手伝ってもらったらどうか②暇を持てあましている準高齢者に週1, 2回の応援をしてもらえば、社会貢献の自負心とともに医療、福祉への理解度も上がり、本人が高齢になった場合（介護される側になったとき）でも大いに役立つのではないかと③ボランティアは無料奉仕であるが、交通費と弁当代程度は自治体で負担④各市町村とも協議し、定期的な講習や要員のプール化をすれば良い<322>
- ・ 安心して医療、介護が受けられるような行政を望みます<324>
- ・ 医療のある田舎<325>
- ・ 海・山の環境は大変よいものがある。そうしたところで安心できる雰囲気の下で人生の最後を迎えるというのは真剣に考えてもよい。最後に自分一人が残る（妻に先立たれ、体もあまりいうことを聞かなくなったら）ようなことになったら、全財産つぎ込んで、そのような場所（施設）へ移るのも有力な選択肢。高知はそういう点で魅力はある<328>
- ・ あまり期待出来ない。医療（特に農村部）のレベルが低い。高知市内ではある程度の医療設備<329>
- ・ 特になし<244, 315>

アンケート(2010.0731)cross

(1)将来の高知県への移住希望 × (11)-1性別

上段:度数 下段:%		(1)将来の高知県への移住希望					
		合計	移住して みたい	短期間だ け滞在し てみたい	現在の住 まいと両 方住みた い(週末	どちらと も言えな い	したくな い
(11)-1性 別	合計	302 100.0	52 17.2	36 11.9	85 28.1	49 16.2	80 26.5
	男性	231 100.0	37 16.0	29 12.6	69 29.9	33 14.3	63 27.3
	女性	71 100.0	15 21.1	7 9.9	16 22.5	16 22.5	17 23.9

アンケート(2010.0731)

(1)将来の高知県への移住希望 × (11)-5家族構成

上段:度数 下段:%		(1)将来の高知県への移住希望					
		合計	移住して みたい	短期間だ け滞在し てみたい	現在の住 まいと両 方住みた い(週末	どちらと も言えな い	したくな い
(11)-5家 族構成	合計	303 100.0	52 17.2	37 12.2	86 28.4	48 15.8	80 26.4
	一人暮らし(独 身)	30 100.0	11 36.7	3 10.0	5 16.7	5 16.7	6 20.0
	一人暮らし(単身 赴任など)	9 100.0	-	2 22.2	4 44.4	2 22.2	1 11.1
	夫婦のみ	155 100.0	24 15.5	15 9.7	44 28.4	28 18.1	44 28.4
	夫婦と子ども	84 100.0	14 16.7	14 16.7	26 31.0	9 10.7	21 25.0
	夫婦と親	5 100.0	1 20.0	-	2 40.0	-	2 40.0
	夫婦と子どもと親	6 100.0	-	1 16.7	2 33.3	1 16.7	2 33.3
	その他	14 100.0	2 14.3	2 14.3	3 21.4	3 21.4	4 28.6

アンケート(2010.0731)

(1)将来の高知県への移住希望 × (11)-6現在の住所

上段:度数 下段:%		(1)将来の高知県への移住希望					
		合計	移住して みたい	短期間だ け滞在し てみたい	現在の住 まいと両 方住みた い(週末	どちらと も言えな い	したくな い
(11)-6現 在の住所	合計	300 100.0	52 17.3	36 12.0	86 28.7	46 15.3	80 26.7
	首都圏	131 100.0	23 17.6	15 11.5	36 27.5	18 13.7	39 29.8
	名古屋圏	75 100.0	16 21.3	11 14.7	19 25.3	11 14.7	18 24.0
	関西圏	94 100.0	13 13.8	10 10.6	31 33.0	17 18.1	23 24.5

アンケート(2010.0731)

(1)将来の高知県への移住希望 × (11)-8高知を離れての年数

上段:度数 下段:%		(1)将来の高知県への移住希望					
		合計	移住して みたい	短期間だ け滞在し てみたい	現在の住 まいと両 方住みた い(週末	どちらと も言えな い	したくな い
(11)-8高 知を離れ ての年数	合計	283 100.0	47 16.6	30 10.6	82 29.0	45 15.9	79 27.9
	5年未満	5 100.0	1 20.0	-	3 60.0	1 20.0	-
	5年～10年未満	6 100.0	1 16.7	-	1 16.7	1 16.7	3 50.0
	10～20年未満	23 100.0	8 34.8	4 17.4	4 17.4	-	7 30.4
	20～30年未満	28 100.0	5 17.9	2 7.1	9 32.1	5 17.9	7 25.0
	30年以上	198 100.0	30 15.2	20 10.1	59 29.8	33 16.7	56 28.3
	その他	23 100.0	2 8.7	4 17.4	6 26.1	5 21.7	6 26.1

アンケート(2010.0731)

(1)将来の高知県への移住希望 × (11)-9帰省の頻度

上段:度数 下段:%		(1)将来の高知県への移住希望					
		合計	移住して みたい	短期間だ け滞在し てみたい	現在の住 まいと両 方住みた い(週末	どちらと も言えな い	したくな い
(11)-9帰 省の頻度	合計	283 100.0	47 16.6	30 10.6	82 29.0	45 15.9	79 27.9
	年1回	54 100.0	12 22.2	8 14.8	11 20.4	11 20.4	12 22.2
	年2回	56 100.0	12 21.4	5 8.9	24 42.9	10 17.9	5 8.9
	年3回以上	55 100.0	13 23.6	3 5.5	24 43.6	9 16.4	6 10.9
	2～3年ごとに	23 100.0	3 13.0	2 8.7	7 30.4	1 4.3	10 43.5
	不定期	64 100.0	4 6.3	10 15.6	11 17.2	12 18.8	27 42.2
	帰省していない	15 100.0	-	1 6.7	1 6.7	1 6.7	12 80.0
	その他	16 100.0	3 18.8	1 6.3	4 25.0	1 6.3	7 43.8

アンケート(2010.0731)

(11)-2年齢 × (11)-5家族構成

上段:度数 下段:%		(11)-2年齢				
		合計	54才以下	55才～59才	60才～64才	65才以上
(11)-5家族構成	合計	312 100.0	60 19.2	29 9.3	68 21.8	155 49.7
	一人暮らし(独身)	30 100.0	14 46.7	3 10.0	2 6.7	11 36.7
	一人暮らし(単身赴任など)	8 100.0	2 25.0	- -	4 50.0	2 25.0
	夫婦のみ	160 100.0	7 4.4	12 7.5	37 23.1	104 65.0
	夫婦と子ども	88 100.0	33 37.5	11 12.5	19 21.6	25 28.4
	夫婦と親	5 100.0	1 20.0	- -	2 40.0	2 40.0
	夫婦と子どもと親	7 100.0	1 14.3	1 14.3	3 42.9	2 28.6
	その他	14 100.0	2 14.3	2 14.3	1 7.1	9 64.3

アンケート(2010.0731)

(1)将来の高知県への移住希望+(6)高知県で住みたい住居(短期滞在含) × (11)-6現在の住所

上段:度数 下段:%		(1)将来の高知県への移住希望						(6)高知県で住みたい住居(短期滞在含)		
		合計	移住してみたい	短期間だけ滞在してみたい	現在の住まいと両方住みたい(週末)	どちらとも言えない	したくない	合計	一戸建て(新築購入)	一戸建て(中古購入)
(11)-6現在の住所	合計	300 100.0	52 17.3	36 12.0	86 28.7	46 15.3	80 26.7	213 100.0	46 21.6	46 21.6
	首都圏	131 100.0	23 17.6	15 11.5	36 27.5	18 13.7	39 29.8	87 100.0	22 25.3	18 20.7
	名古屋圏	75 100.0	16 21.3	11 14.7	19 25.3	11 14.7	18 24.0	62 100.0	10 16.1	8 12.9
	関西圏	94 100.0	13 13.8	10 10.6	31 33.0	17 18.1	23 24.5	64 100.0	14 21.9	20 31.3

アンケート(2010.0731)

上段:度数 下段:%		(6)高知県で住みたい住居(短期滞在含)					
		空き屋(賃貸)	分譲マンション	賃貸マンション	民泊	ウィークリーマンション	その他
(11)-6現在の住所	合計	54 25.4	24 11.3	25 11.7	18 8.5	18 8.5	49 23.0
	首都圏	26 29.9	10 11.5	12 13.8	10 11.5	9 10.3	16 18.4
	名古屋圏	18 29.0	7 11.3	7 11.3	3 4.8	6 9.7	21 33.9
	関西圏	10 15.6	7 10.9	6 9.4	5 7.8	3 4.7	12 18.8

アンケート(2010.0731)

(1)将来の高知県への移住希望 × (11)-2年齢

上段:度数 下段:%		(1)将来の高知県への移住希望					
		合計	移住してみたい	短期間だけ滞在してみたい	現在の住まいと両方住みたい(週末)	どちらとも言えない	したくない
(11)-2年齢	合計	302 100.0	52 17.2	36 11.9	86 28.5	49 16.2	79 26.2
	54才以下	59 100.0	20 33.9	6 10.2	16 27.1	11 18.6	6 10.2
	55才～59才	28 100.0	11 39.3	2 7.1	7 25.0	1 3.6	7 25.0
	60才～64才	66 100.0	9 13.6	10 15.2	26 39.4	9 13.6	12 18.2
	65才以上	149 100.0	12 8.1	18 12.1	37 24.8	28 18.8	54 36.2

アンケート(2010.0731)

(1) 将来の高知県への移住希望 × (11)-3 職業

上段:度数 下段:%		(1) 将来の高知県への移住希望					
		合計	移住して みたい	短期間だ け滞在し てみたい	現在の住 まいと両 方住みた い(週末	どちらと も言えな い	したくな い
(11)-3 職業	合計	302 100.0	52 17.2	35 11.6	86 28.5	49 16.2	80 26.5
	会社員	67 100.0	18 26.9	6 9.0	21 31.3	11 16.4	11 16.4
	公務員	14 100.0	5 35.7	1 7.1	4 28.6	1 7.1	3 21.4
	自営業・自由業	42 100.0	7 16.7	9 21.4	14 33.3	6 14.3	6 14.3
	会社役員	43 100.0	6 14.0	7 16.3	17 39.5	4 9.3	9 20.9
	家事専従	15 100.0	1 6.7	1 6.7	1 6.7	8 53.3	4 26.7
	パート・アルバイト	12 100.0	3 25.0	2 16.7	3 25.0	-	4 33.3
	農林水産業	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-
	無職	87 100.0	6 6.9	6 6.9	22 25.3	18 20.7	35 40.2
	その他	23 100.0	6 26.1	3 13.0	4 17.4	2 8.7	8 34.8

アンケート(2010.0731)

(1) 将来の高知県への移住希望 × (11)-4 職種

上段:度数 下段:%		(1) 将来の高知県への移住希望					
		合計	移住して みたい	短期間だ け滞在し てみたい	現在の住 まいと両 方住みた い(週末	どちらと も言えな い	したくな い
(11)-4 職種	合計	212 100.0	43 20.3	28 13.2	65 30.7	28 13.2	48 22.6
	事務	27 100.0	9 33.3	3 11.1	8 29.6	3 11.1	4 14.8
	営業	20 100.0	3 15.0	2 10.0	10 50.0	5 25.0	-
	専門・技術	68 100.0	17 25.0	9 13.2	19 27.9	11 16.2	12 17.6
	管理	45 100.0	5 11.1	9 20.0	16 35.6	3 6.7	12 26.7
	サービス・販売	18 100.0	4 22.2	2 11.1	8 44.4	-	4 22.2
	その他	38 100.0	5 13.2	3 7.9	6 15.8	8 21.1	16 42.1

高知県への移住に関する意識調査について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

土佐経済同友会では、団塊の世代を始めとした県外在住の方に「Ｕターン」や「二地域居住」等により“ふるさと高知”へ帰ってきていただく事で、人口減少対策や地域活動の維持・創出を図ると共に、大都市がかかえる高齢者福祉問題の中にも、高知県の「地域の活性化」の為の方策があるのではないかと考えております。

このたびのアンケート調査は、高知県のご協力を得て、高知県人会の皆様方から、本県への移住等の意向について率直なご意見をお聞かせいただき、今後の取組みに活かしていきたいとの思いから行なうものであります。

尚、ご回答いただきました内容は、調査目的以外に使用する事はございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

平成２２年５月

土佐経済同友会 代表幹事 久松 朋水
木村 祐二

主幹 土佐経済同友会健康福祉委員長 中澤 陽一
協力 高知県地域づくり支援課

※ご記入にあたって※

- このアンケートは、無記名ですので、回答者が特定されることはありません。
また、回答はすべて統計的に処理し、個々の調査票を外部に出すことはありません。
- それぞれの問いについて、あてはまる番号に○をつけてください。
- ご記入後は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、○月○日までにご返送ください。

ご多忙のところ大変恐れ入りますが、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

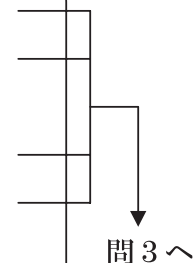
【問い合わせ先】

土佐経済同友会 事務局	０８８－８８５－６７０７
高知県 地域づくり支援課	０８８－８２３－９７８１

高知県への移住等の希望についてお聞きします

問1 将来的に高知県への移住をしたいと思いますか。
(あてはまる数字を1つ選んで○をつけてください)

1. してみたい
2. 短期間だけ滞在してみたい ※希望する期間に○をつけてください
(ア 1～2週間以内 イ 1ヶ月程度 ウ 1年以内 エ 2～3年)
3. 移住ではなく、現在の住まいとの両方に住んでみたい(週末だけなど)
4. どちらも言えない(考えたことがない)
5. したくない → 問2へ



【高知県への移住を希望しない方】

問2 移住を希望しない具体的理由は何ですか。
(あてはまる数字を最大3つまで選んで○をつけてください)

1. 現在の居住地での生活に満足しているから必要がない
2. 家族の賛成が得られないから
3. 現在の仕事の関係
4. 交通の便が悪いので、移動に困るから
5. 高知県では仕事を見つけることが難しいから
6. 高知県や移住に関する情報がないので、よくわからないから
7. 医療・福祉サービス情報がよくわからないから
8. 文化・芸術面において今よりもレベルが落ちるから
9. 買い物に不便だから
10. 移住するにも費用が必要だから
11. その他 ()

→ 問8へ

【高知県への移住（短期滞在など）を考えている方】

(問1で「4. どちらとも言えない」と回答された方も、もしするとしたらと仮定してお答えください。)

問3 移住（短期滞在など）をしたいと思う理由は何ですか。

(あてはまる数字を**最大3つ**まで選んで○をつけてください)

1. 自然環境がいいから
2. 知り合いがたくさんいるから
3. 親の面倒をみななければいけないから
4. 高知県（ふるさと）が好きだから
5. 実家の跡継ぎをしなければならぬから
6. 将来、高齢での都会生活に不安があるから
7. 住まい（生家など）があるから
8. 退職後のセカンドライフを高知で送りたいから
9. その他（ ）

問4 高知県ではどのような暮らしがしたいですか。

(あてはまる数字を最大3つまで選んで○をつけてください)

1. 仕事をしたい
2. 悠々自適に暮らしたい
3. 地域活動・社会貢献（具体的に：_____）
4. 家庭菜園やガーデニング
5. 趣味を楽しむ（具体的に：_____）
6. 習い事や語学学習（具体的に：_____）
7. 親や家族と一緒に暮らす
8. その他（_____）

問4-1 問4で「1」を選ばれた方におたずねします。 仕事をするとしたらどんな仕事をしたいですか。

1. 一次産業（農林水産業等）
2. 二次産業（製造業等）
3. 三次産業（サービス業等）

具体的イメージがあればお答え下さい

問5 高知県ではどこに住みたいです。

(あてはまる市町村を**最大3つ**まで選んで○をつけてください)

※合併前の市町村で記載しています

1. 高知市 2. 鏡村 3. 土佐山村 4. 春野町
5. 室戸市 6. 東洋町 7. 北川村 8. 奈半利町 9. 馬路村 10. 田野町 11. 安田町
12. 安芸市 13. 土佐山田町 14. 香北町 15. 物部村 16. 芸西村 17. 赤岡町
18. 香我美町 19. 野市町 20. 夜須町 21. 吉川村 22. 大豊町 23. 本山町 24. 南国市
25. 土佐町 26. 大川村 27. 伊野町 28. 吾北村 29. 本川村 30. 土佐市 31. 日高村
32. 佐川町 33. 須崎市 34. 越知町 35. 池川町 36. 吾川村 37. 仁淀村 38. 東津野村
39. 葉山村 40. 中土佐町 41. 大野見村 42. 窪川町 43. 大正町 44. 十和村 45. 檮原町
46. 佐賀町 47. 大方町 48. 中村市 49. 西土佐村 50. 三原村 51. 土佐清水市
52. 宿毛市 53. 大月町

問6 高知県では、どのような住居に住みたいです。

(複数回答可) ※短期滞在含

1. 一戸建て(新築購入) 2. 一戸建て(中古購入) 3. 空き家(賃貸)
4. 分譲マンション 5. 賃貸マンション 6. 民泊 7. ウィークリーマンション
8. その他 ()

問7 移住(短期滞在含)を決めるにあたって必要な条件は何ですか。

(あてはまる数字を**最大3つ**まで選んで○をつけてください)

1. 自然環境が良いこと 2. 医療・福祉が充実していること
3. 交通の便が良いこと 4. 住宅が安く確保できること
5. 就労の場があること 6. IT環境が充実していること
7. 食べ物がおいしいこと 8. 娯楽施設が充実していること
9. スーパーや商店街が近いこと 10. 歴史・文化的な環境がよいこと
11. 文化・教養施設が充実していること
12. その他 ()

問8 すべての方にお伺いします。もし高知県へ移住するとしたら、具体的にどのような情報を得たいと思いますか。

(あてはまる数字を**最大3つ**まで選んで○をつけてください)

1. 市町村に関する情報
2. 移住を支援する施策や事業に関する情報
3. 移住経験者に関する情報
4. 住宅に関する情報
5. 就職に関する情報
6. 就農等に関する情報
7. NPOやボランティア活動に関する情報
8. 自分の技術や技能を活かせる場づくりの情報
9. 起業・創業に関する情報
10. 移住後の社会参加をサポートする仕組みづくりの情報
11. 移住に関するセミナーやシンポジウムの情報
12. 観光、レジャー、イベントに関する情報
13. その他 ()

問9 全ての方にお伺いします。もし、高知県へ移住するとしたら、どのような条件、環境、サービス等を望みますか。ご自由にお書きください。

問10 今後、大都市では高齢者の急激な増加に伴い、医療・福祉等のサービス低下が懸念されています。これらを踏まえ、高知県の医療・福祉サービスについて、ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

問11 あなた自身についてお聞きします
(あてはまる数字に○をつけてください)

1) 性別

1. 男性 2. 女性

2) 年齢

1. 54才以下 2. 55才～59才 3. 60才～64才 4. 65才以上

3) 職業

1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業・自由業 4. 会社役員 5. 家事専従
6. パート・アルバイト 7. 農林水産業 8. 無職 9. その他 ()

4) 職種

1. 事務 2. 営業 3. 専門・技術 4. 管理 5. サービス・販売
6. その他 ()

5) 家族構成

1. 一人暮らし(独身) 2. 一人暮らし(単身赴任など) 3. 夫婦のみ
4. 夫婦と子ども 5. 夫婦と親 6. 夫婦と子どもと親
7. その他 ()

6) 現在の住所

1. 首都圏 2. 名古屋圏 3. 関西圏

7) 出身市町村 ※合併前の市町村名で記載しています

1. 高知市 2. 鏡村 3. 土佐山村 4. 春野町
5. 室戸市 6. 東洋町 7. 北川村 8. 奈半利町 9. 馬路村 10. 田野町 11. 安田町
12. 安芸市 13. 土佐山田町 14. 香北町 15. 物部村 16. 芸西村 17. 赤岡町
18. 香我美町 19. 野市町 20. 夜須町 21. 吉川村 22. 大豊町 23. 本山町 24. 南国市
25. 土佐町 26. 大川村 27. 伊野町 28. 吾北村 29. 本川村 30. 土佐市 31. 日高村
32. 佐川町 33. 須崎市 34. 越知町 35. 池川町 36. 吾川村 37. 仁淀村 38. 東津野村
39. 葉山村 40. 中土佐町 41. 大野見村 42. 窪川町 43. 大正町 44. 十和村 45. 檮原町
46. 佐賀町 47. 大方町 48. 中村市 49. 西土佐村 50. 三原村 51. 土佐清水市
52. 宿毛市 53. 大月町 54. 高知県以外

8) 高知を離れての年数

1. 5年未満 2. 5年～10年未満 3. 10年～20年未満
4. 20年～30年未満 5. 30年以上 6. その他（ ）

9) 帰省の頻度

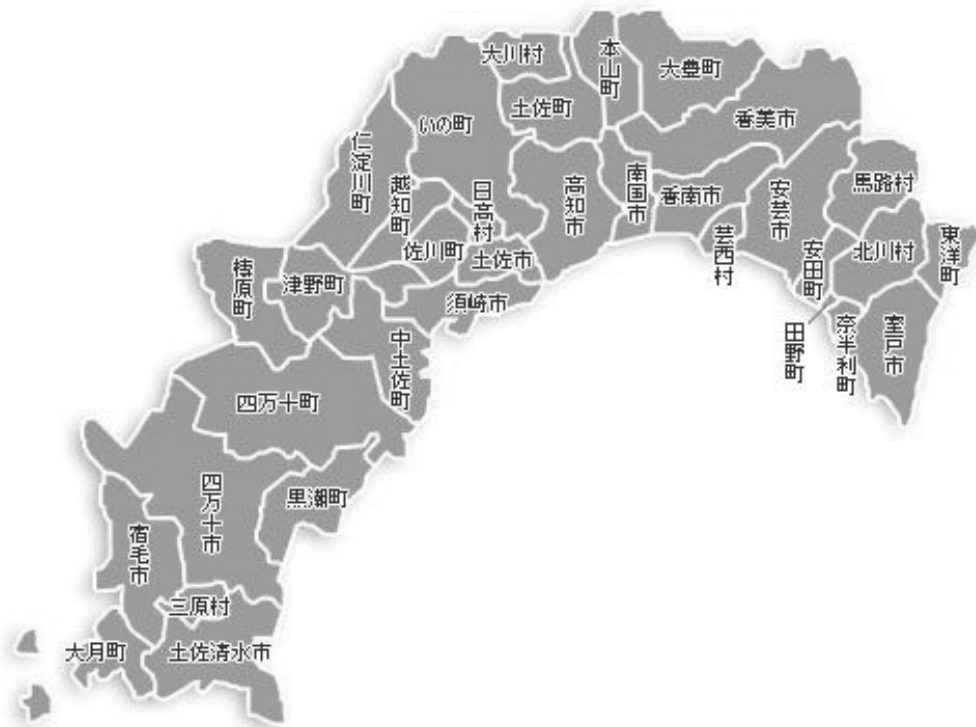
1. 年1回 2. 年2回 3. 年3回以上 4. 2～3年ごとに
5. 不定期 6. 帰省していない 7. その他（ ）

◆ご協力ありがとうございました◆

本アンケートは、高知女子大学社会福祉学部田中きよむ教授により集計・分析させていただきます。

※同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、○月○日までにご返送ください。

【参考】現在の市町村行政区分図



本件に関する問い合わせ先

土佐経済同友会 事務局

〒780-0823 高知市菜園場町1-21 四国総合ビル3F

四銀キャピタルリサーチ(株) 内

TEL. 088-885-6707 FAX. 088-883-1156

◇ ホームページ <http://www.tosadoyukai.com/>

◇ メールアドレス tosadoyu@orange.ocn.ne.jp